

## はじめに

本学における自己評価は、大学の現状についての生のデータを社会に公表することによって社会からの客観的評価を得ようとするものである。自己評価委員会は、従来聖域とされてきた研究活動においてもこの域を逃れることはできないと認識し、報告書刊行2年次にして研究活動の自己評価にとりかかった。

ところで、研究活動は、それ自身が主体的な営みであり、そもそも客観的な尺度では秤量することに馴染まない性質のものである。それでもなお自己評価に踏み切ったことについては、大学の自己評価活動における研究活動の自己評価は、他からの強制ではなく、相互啓発を狙いとする自らなる営みであるものであり、己の研究について過去を振り返り、現状をどう認識するか、今後いかなる方向に重点を置くべきかなどは、普段から研究者が自問自答しているところであるという認識を本学構成員が共有するからに他ならない。その結果、各人により提示される評価は、研究者個人の潜在的な方向性を顕在化することによって、研究活動をより積極的なものたらしめる性格のものとして位置づけられる。

なお、回答依頼に際しては、下記の自己評価刊行物公開基準（抜粋）を添付し、回答が同基準を承知の上でなされることを確認した。

本（自己評価）委員会は、各実施主体からの自己点検・評価結果の公開に際し、事前に、次に掲げる基準に基づき検討し、報告書を作成するものとする。

- ① 長期的観点から本学の発展に資する内容であること。
- ② 社会的要請に応えられる内容であること。
- ③ プライバシーの侵害のおそれがある事項は避けること。

ただし、個人に関する情報の内、氏名、職位、所属、専攻は、本人が公務上表示を拒否し得ない事項と判断される。

	凡 例
分 類	学科（課程）、学科目及び教育研究施設等別に分類した。
配 列	教授、助教授、講師及び助手の順とし、各々五十音順とした。
掲載事項	[研究領域] … これまでの研究領域 [代表的業績] … 研究領域における代表的業績 [研究テーマ] … 現在の研究テーマ [教育への還元] … 研究の教育への還元 [今後の方向性] … 研究の今後の方向性 [活動と環境] … 研究環境の評価と改善事項

## 経 済 学 科

井 上 巽

INOUE Tatsumi

教 授

[研究領域] [領域] イギリス産業革命史 [キーワード] ランカシャー綿工業、工場制度の成立、小生産者の発展

[領域] イギリス帝国金融史 [キーワード] ロンドン金融市場、イギリス海外投資、インド金為替本位制

[代表的業績] 『イギリス資本主義の確立』（共著）御茶の水書房、昭和43（昭和53再版）。

『イギリス資本主義と帝国主義世界』（共編著）九州大学出版会、平成2。

『二〇世紀的世界の形成』（共著）、南窓社、平成6。

[研究テーマ] [テーマ] 両大戦間期のイギリス帝国経済史 [キーワード] 多角的貿易網、イギリスの帝国内投資、世界大不況、帝国特惠システム、スターリング・ブロック

[教育への還元] 自分の研究成果を講義およびゼミナールで学生諸君に伝えることはきわめて重要だと考えている。新しい研究成果に立って講義をしたときには、学生諸君の受講態度にはっきりとその反応をみることができる。その際、研究成果を学生諸君にも理解できるように平易に解説することに心がけているが、このことは同時に自分自身の研究にも役立っていると考えている。

[今後の方向性] 現代の国際経済の諸問題を展望するような問題関心に立って、1920・30年代のイギリス帝国経済史の研究を続ける。その際、研究対象を従来のインドから、さらにカナダ、オーストラリア、ニュージーランドなどにも拡大する予定である。

[活動と環境] 1. 東京を中心にして開催される学会、研究会に出席するために研究旅費の増額が必要だと思われる。

2. 個人研究費の増額も必要であることはいうまでもない。

今 西 一

IMANISHI Hajime

教 授

[研究領域] [領域] 地価修正 [キーワード] 地租改正、地価修正

[領域] 被差別部落 [キーワード] 被差別部落、「解放令」

[代表的業績] 今西 一『近代日本成立期の民衆運動』（柏書房）

今西 一『近代日本の差別と村落』（雄山閣）

[研究テーマ] [テーマ] 文明開化と民衆生活 [キーワード] 文明開化、乞食・賤民

[教育への還元] 研究内容を著書に生かすだけでなく、授業でも学生に話し、学生の反応を見ながら考えている。

[今後の方向性] 文明開化期から自由民権運動へと進みたい。

[活動と環境] 研究費は少ない。研究施設は図書館ひとつをとっても極めて不備である。研究費、旅費、などの増加を切に望む。

## 鶴 沢 秀

U Z A W A Masaru

教授

[研究領域] [領域] 産業組織論および応用ミクロ経済学 [キーワード] 寡占企業の行動、クールノー均衡、シュタッケルベルク均衡、製品差別化、参入と退出、参入障壁

[領域] コンピューター利用による経済学学習プログラム [キーワード] B A S I C言語、ミクロ経済学、マクロ経済学、産業組織論

[代表的業績] 「企業間の費用格差と製品差別のある複占超ゲームの解」『商学討究』第36巻第3号（昭和61年3月）、p p. 125-150.

「パソコンのコンピューター・グラフィックスを利用した経済学学習のプログラム」（1）、（2）、および（3）、『商学討究』第41巻第2号（平成2年10月）、p p. 25-72、第42巻第4号（平成4年3月）、p p. 15-45、および、第45巻第3号（平成7年1月）p p. 83-107。

[研究テーマ] [テーマ] 参入障壁と寡占企業間の推測——シミュレーション分析 [キーワード] 参入障壁、規模の経済性、宣伝費、製品差別化、R & D

[テーマ] コンピューター利用による経済学学習プログラム [キーワード] B A S I C言語、ミクロ経済学、マクロ経済学、産業組織論

[教育への還元] 経済学を学ぶ初心者が陥りやすい点を考慮し、理解し易い図形や数値例を中心にした、コンピューター利用の経済学学習用のプログラムを作成し、学内の機器を利用して学べるように昭和63年以来努力してきた。プログラムは日本電気、P C 9800 シリーズ用、富士通 F M R - 60 & 70 シリーズ用、東芝 D y n a B o o k シリーズ用、および、I B M P C / X T / A T / P S 2 および、その互換機用に開発してきた。

特に I B M P C / X T / A T / P S 2 および、その互換機用プログラムは、

平成4年3月より文部省在外研究および海外研修で併せて2年間、アメリカ・ニューヨーク州ロチェスター大学およびコロラド州コロラド大学ボルダー校での研修中に日本語版から移植したり、新しく開発したものである。そして、そのプログラムのデモンストレーションを両大学の経済学部で行ってきた。

また、産業組織論における最近の理論展開がそのままでは非常に複雑、かつ、精緻になってきている。そこで、その考え方のエッセンスを易しい数値例やグラフで紹介することを試みている。コンピューター・グラフィックスを利用したプログラムの作成を行い、完成した図形を配布してきた。

[今後の方向性] 「参入障壁と寡占企業間の推測——シミュレーション分析」を出発点にして、寡占企業間の推測とともに、規模の経済性、固定費用、宣伝費、製品差別化、R&D、設備投資の非可逆性などの諸要因がどのように参入障壁に影響を与えているかを実証分析したい。

[活動と環境] (1) 図書館の利用時間が限られていて、使いたいときに利用できないので不便である。例えば、学生のアルバイトなどを利用して、できるかぎり長時間利用できることが望ましい。

(2) コンピューター資源を利用するときに、適切に相談できる人的資本が限られている。そこで、アメリカの大学では一般的であるが、相談員として、コンピューターに詳しい学生をアルバイトで雇うこと（同じことになるが、奨学金の支給）を検討して欲しい。初級、中級、上級に分けて相談を処理すれば、より効率的であり、学生も人に教えることを通じて、将来の職業へのトレーニングになる。

(3) 研究会ばかりではなく、簡単な話し合いがきっかけで共同研究が進展する場合がしばしばでてくることから、ホワイトボードなどの用具が揃ったラウンジ等の施設が欲しい。

(4) 予算額が少ないので、単年度の予算配分方式では、高額の図書、機器類、ソフトウェアを購入すると他の品目を購入できなくなって困る。

遠藤 薫

ENDO Kaoru

教授

[研究領域] [領域] 情報の経済分析 [キーワード] 経済、情報、価格、サーチ、不確実性

[代表的業績] 「広告における製造業者と小売業の価格情報」『商学討究』第42巻第4号、1992年、165-171ページ。

[研究テーマ] [テーマ] 医療の経済分析 [キーワード] 経済、医療、皆保険、不確実性、情

報の非対称性

[教育への還元] 研究は教育に間接的に効果があると考えます。

[今後の方向性] 計量経済分析を行うというかたちで進めます。

## 本 間 正 義

HONMA Masayoshi

教 授

[研究領域] [領域] 農業経済学 [キーワード] 農業政策、農業経済、農産物市場  
[領域] 国際農業経済論 [キーワード] 農業保護の国際比較、食糧問題、ガットと農業

[代表的業績] 『農業問題の政治経済学』日本経済新聞社、1994年。

Trade and Protectionism (共著), The University of Chicago Press, 1993.

[研究テーマ] [テーマ] UR後の世界農業と農業貿易の構造 [キーワード] ガット・ウルグアイ・ラウンド、世界農業、農産物貿易、WTO

[教育への還元] 私の研究領域は現実問題と直結しており学生の関心も高い。しかし、表面的な理解にとどまることも多いので、その根底にある問題を指摘し、また、他の経済問題といかに関わっているかを理解させるよう、ゼミナール等を通して努めている。一方、個々の研究を直接学生にぶつけるよりは、関係する分野を体系的に教育することも重要であると考え実践している。

[今後の方向性] 国の内外の研究者との交流および共同研究を通じ、より広いネットワークの下で研究を進める予定である。

[活動と環境] 1. 備品などハード面での研究費に比べ、人件費、旅費として使えるソフト面での研究費が乏しい。  
2. 個人的には研究発表の場は多く、また、現実問題へのフィードバックの機会も多いが、一般的には研究交流の場が専門分化しすぎている点が危惧される。  
3. 社会科学では今だに共同研究に対する認知度が低いように思われる。大規模な研究や効率化のためには共同研究が欠かせず、その必要性が益々高まっているので、その評価を高めることが重要と思われる。

## 板 谷 淳 一

I T A Y A Junichi

助教授

[研究領域] [領域] 租税の動学的帰着分析 [キーワード] 動学的帰着分析  
[領域] 公共財の自発的供給 [キーワード] 自発的供給

[代表的業績] “Tax Incidence in a Two-sector Growing Economy with Perfect Foresight: Long-run Analysis” *Journal of Public Economics* 44, 95-118, 1991.

“Comparative Statics for the Private Provision of Public goods in a Conjectural Variations Model with Heterogenous Agents”(coauthored with D. Dasgupta) *Public Finance* Vol. 47, 1992.

[研究テーマ] [領域] 租税の動学的帰着分析 [キーワード] 動学的帰着分析

[領域] 公共財の自発的供給 [キーワード] 自発的供給

[教育への還元] 最先端の研究フロンティアで研究活動をしていなければいきいきした授業ができないと考えている。

[今後の方向性] レフェリー付きの国際的専門誌に発刊可能な水準の高い論文を書くこと。

[活動と環境] ・研究費および図書館の資料はほぼ満足。

・しかし、外国で短期間で滞在して、共同研究するための旅費が不十分 or 全くない。

・大学行政のための会議や委員会が多すぎて、研究活動に集中できない。

## 加藤睦洋

KATO Mutsuhiro

助教授

[研究領域] [領域] 不確実性下の動学的最適化 [キーワード] 期待効用、不確実性増大、動的計画法

[代表的業績] 「寿命不確実性下の消費者行動について」

『商学討究』43巻、3、4合併号、1993年3月

「可変的寿命不確実性と消費/貯蓄決定」

『商学討究』45巻、2号、1994年11月

[研究テーマ] [テーマ] Yaari モデルの図解分析 [キーワード] 死亡確率分布、生命保険一年金証券、位相図、期待効用、Euler-Lagrangeの微分方程式。

[教育への還元] 今までのところ、研究問題と講義内容との間に非常に大きな相違があるので、具体的還元策は思いつかない。将来大学院の授業を担当すれば、その可能性も出てくるかとも思う。

[今後の方向性] 不確実性経済学の研究終了後は、長期国際資本移動を研究したいと思っている。

[活動と環境] 好ましい。別に不都合はありません。

赵 来 勋

ZHAO Laixun

助教授

[研究領域] [領域] International Trade & Investment, Joint Ventures, Regional Integration, Political Economy

[代表的業績] Cross-Hauling Direct Foreign Investment and Unionized Oligopoly  
European Economic Review, 1995, Forthcoming

[研究テーマ] [テーマ] Strategic Investment, Regional Integration, Transfer Pricing

[教育への還元] My research definitely enhances my teaching.

[今後の方向性] Economic Cooperation in the Pacific Rim.

篠 塚 友 一

SHINOTSUKA Tomoichi

助教授

[研究領域] [領域] 最適成長理論 [キーワード] 異時点間資源配分、オイラー方程式、横断条件

[領域] 一般均衡理論 [キーワード] 競争的均衡、コア

[代表的業績] “Transversality Condition in Infinite Horizon Concave Problems,”  
(1990年度・理論計量経済学会にて発表。)

“A Limit Theorem on The Core : Addendum II” Economics Letters 3 1991、  
(共著)

“Equity, Continuity, and Myopia : A Generalization of Diamond’s impossibility Theorem” (forthcoming in Social Choice and Welfare)

[研究テーマ] [テーマ] 世代間資源配分に関する評価基準の公理的研究 [キーワード] ダイアモンドの不可能性定理、マッキー位相、衡平性公理

[教育への還元] 教官の研究領域での最近の話題・教官本人が特に関心をもっているトピックスについて、特別講義のワクを利用して講義を行なう。これについては、担当教官数5～6名程度のローテーション・システムを採用し、教官の講義負担をなるべくふやさないようにする。

[今後の方向性] 現在の研究プロジェクトの継続。

[活動と環境] ・海外の学会での論文発表のための渡航費の援助。  
・道外での研究会参加のための資金援助。(主に旅費)  
・短期の在外研究のための資金援助。

## 柴山千里

SIBAYAMA Chisato

助教授

[研究領域] [領域] GATT (関税と貿易に関する一般協定) の機能と歴史に対する理論的アプローチ [キーワード] 大国の仮定、市場の失敗、所得の中立的再分配、貿易交渉、補助金、数量制限、スーパー301条、発展途上国

[領域] ダンピングとダンピング防止法の理論的分析 [キーワード] 価格差別、非可逆的投資決定、習熟効果、需要惰性、ダンピング防止税、数量規制、クールノー競争、相互ダンピング、戦略的企業行動、市場独立認定価格、市場連動的認定価格、ベルトラン競争

[代表的業績] 「GATT交渉—政治経済学的アプローチ」『世界経済評論』1992年 5月号 47-58頁 「輸出独占下のダンピングと防止税の効果—市場間及び異時点間差別価格の分析」『日本経済研究』1992年7月 84-115頁 (共同論文)

[研究テーマ] [テーマ] ダンピング防止法の理論的分析 [キーワード] クールノー競争、プライスフロア、ダンピング防止ルール、ダンピング防止税

[教育への還元] 授業は来年度から行うが、予定としては、国際経済政策の授業では、今まで行ってきたGATT (WTO) に関する研究を講義に盛り込みたいと思っている。研究の教育への還元に関する考えは、教官が自分の研究分野を説明するときは、いきおい熱意を持って話すことになるため、学生に対して感化力があり、向学心を刺激するという意味で重要であると自分の学生時代の体験を振り返って思う。

[今後の方向性] 各国通商法の法源となっているGATT-WTOルールがどのように成立したか、またそのルールが貿易と各国厚生に与える影響を分析する。

[活動と環境] 赴任したばかりなので、まだよくわからない。

## 渋谷 浩

SHIBUYA Hiroshi

助教授

[研究領域] [領域] 資産価格とインフレーション [キーワード] バブル経済、資産インフレ、インフレ指標、金融政策

[代表的業績] "Dynamic Equilibrium Price Index: Asset Price and Inflation," *Bank of Japan Economic and Monetary Studies*, Vol. 10, No. 1, 1992.

[研究領域] [領域] EC統合と世界経済 [キーワード] 市場統合、国際貿易、直接投資、新しい国際経済秩序



- [代表的業績] 「EC統合と世界経済—貿易と直接投資への影響に関するサーベイ的考察」  
『日本銀行月報』1991年4月
- [研究テーマ] [テーマ] Dynamic Effects of Monetary Policy and Banking Crisis  
[キーワード] Business Cycles, Capital Asset Price Overshooting, Monetary Policy, Banking Crisis, Monetary Disequilibrium
- [教育への還元] 講義、小人数ゼミナールを通じて学部学生でも理解できそうな研究内容については、それを少しでも役立てようと努力している。しかし、本格的な研究成果を教育に還元しようとするれば、その前提として学生の質が向上しなければならない。
- [今後の方向性] 今後の研究テーマとしては、「開放経済下での金融財政政策」、「日米貿易不均衡問題」、「欧州経済通貨統合」、「政府の経済的役割」、「情報とインセンティブの経済学」など多数考えている。さらに、今後より多くの実証研究を行いたいとも考えているが、そのためには下記のような研究施設の問題が克服されなければならない。
- [活動と環境] 研究施設に関して言えば、実証研究を行うために必要なデータ・ベースへの容易なアクセスが困難もしくは不可能である。今後、CD-ROM、データ・サービスの利用など、データ・ベースの向上が強く望まれる。研究環境一般について言えば、この「自己評価活動」を含めた雑務、各種会議、授業負担などの増加によって研究活動に支障が生じている。

## 角 野 浩

SUMINO Koh

### 助教授

- [研究領域] [領域] 財政学 [キーワード] 租税理論 (租税帰着分析、最適課税論)  
[領域] 公共経済学 [キーワード] 失業対策、厚生分析
- [代表的業績] 租税帰着分析：失業と技術的不確実性
- [研究テーマ] [テーマ] 租税の経済理論、理論経済学 [キーワード] 租税帰着分析、最適課税論
- [教育への還元] 講義としては、「財政学」を受け持っており、自分の研究分野における学会報告及び先進理論等を積極的に盛り込んでゆく。特に、現代日本の財政状況については特に関心のもたれる問題であり、理論的裏付けのもとで講義を行なってゆくことが必要であると考え。
- [今後の方向性] 短期的には、理論分析のフレームワークを精緻化してゆくことであり、長期的には理論的裏付けのある政策提言を行なってゆきたい。

- [活動と環境] ・研究費：物品費+図書費での研究費であり、パソコン等のハードを購入した場合、十分な図書費が確保できない。
- ・研究施設：外国の雑誌等は図書館にある程度確保されているが、その他の施設については必要十分とは言い難い。
- ・業績発表機会：学内報告、学会報告を積極的に行なえば、地理的な不利な条件も克服できると考えられる。
- ・学会交流：上述のように、積極的な参加が不可欠である。

## 中 村 健 一

NAKAMURA Kenichi

助教授

- [研究領域] [領域] 日本的雇用慣行の経済分析 [キーワード] 日本的雇用慣行、終身雇用、年功賃金
- [領域] 産業別労働需要の計量分析 [キーワード] 生産関数、費用関数、需要の価格弾力性
- [代表的業績] 「日本的雇用慣行と特殊人的資本再考」小樽商科大学『商学討究』第43巻3・4合併号
- [研究テーマ] 上であげた領域に加えて、[テーマ] 労働市場のマクロ経済理論 [キーワード] 効率賃金、インサイダーアウトサイダー
- [教育への還元] 研究内容を講義や演習などの内容に盛り込むことは、結果的に経済学の古典的内容の理解を助けることになると考え、平明な解説の形式で実行している。
- [今後の方向性] 先に挙げた研究領域を統合するような形で、日本的労働市場の特性をミクロ経済学的文脈で捉えることに努力したい。

## 西 山 茂

NISHIYAMA Shigeru

助教授

- [研究領域] [領域] 計量経済学 [キーワード] 家計行動分析
- [領域] 統計学 [キーワード] 国民経済計算
- [代表的業績] “Consistency between Macro- and Micro-data Sets in the Japanese Household Sector” (coauthored with A.Maki), 1993, *Review of Income and Wealth*, Series 39, NO. 2 . pp. 195-207

“Implication and Quality Characteristics of the Income and Expenditure Survey, 1984-88”, 1994, Journal of the Japan Statistical Society, Vol. 24, No 1. pp. 89-104

[研究テーマ] [テーマ] 家計所得・消費・貯蓄に関するマイクロアナリシス [キーワード]

Micro Datasets, Equivalence Scales, Welfare Comparison

[教育への還元] 担当している「数理統計学」では、数理的技術よりも統計的発想の修得と応用に重点を置いており、研究指導では、官庁、研究機関などで実際に行われている実証分析手法の演習を行っている。その際、研究活動の基本となる心構えが伝えられているものと感じている。

[今後の方向性] これまでの研究実績、現在の研究テーマの基本線に沿って進めていきたい。

[活動と環境] 統計学、計量経済学は、データベース、コンピュータなどの情報処理資源を集中的に必要とする。本学の研究施設の水準は基本的に十分であると認識しているが、それを有効に活用するためのソフトウェア、コンサルタント・サービス水準、教育サービス体制に改善の余地が残されていると感じている。そのため、本人負担により適当な方法で研究・教育を進めることになるが、それには現在の研究費等は学内外ともに不十分と、(個人的には)感じている。

## 花 田 功 一

HANADA Koichi

助教授

[研究領域] [領域] 再生産表式論 [キーワード] 再生産、表式

[領域] 現代資本主義論 [キーワード] 現代、資本主義論

[代表的業績] 「再生産表式論と第I部門の不均等発展の限界」『商学討究』、第41巻 第2号、1990年 「スタグフレーションについて」『商学討究』、第43巻第3・4号、1993年

[研究テーマ] [テーマ] 1975年以降の日本とアメリカの経済 [キーワード] 1975年以降、日本経済、アメリカ経済

[教育への還元] 現在研究している内容を講義で話すほうが、自分の研究にとっても学生にとっても有益であると思われるのでそのような方向で実践している。

[今後の方向性] ごく最近の経済(日本・アメリカ)の分析によって、現在抱えている問題や将来の展望をヴィヴィッドに描き出すことを目指している。

[活動と環境] 高価な統計書が多くなっているため現在の研究費ではとても足りない。研究費を大幅に増やしてもらわないと十分な実証研究ができない。

## 船 津 秀 樹

FUNATSU Hideki

助教授

- [研究領域] [領域] 国際貿易と政治的リスク [キーワード] 輸出信用保険、不確実性下の意思決定  
[領域] 国際貿易と不完全雇用 [キーワード] 比較優位、失業、最低賃金
- [代表的業績] “Export Credit Insurance.” *Journal of Risk and Insurance*, 53, 1986.  
「Factor Price Rigidities and Comparative Advantage」『商学討究』42巻、  
1・2・3号 1991年
- [研究テーマ] [テーマ] フリー・トレード・ゾーンの経済学 [キーワード] 保税制度、関税法上の外国、貿易促進、国際化と地域経済の活性化 [キーワード] 相互依存関係、経済統合、中小企業
- [教育への還元] 講義に、現実の具体的な事例を豊富に取り入れるように努力している。ゼミナールにおいては、これまでの研究成果を生かして、新しい視点から卒業論文を作成するように指導している。
- [今後の方向性] 理論と実証研究のバランスのとれた研究を行いたいと考えている。国際経済における貿易と投資の自由化が地域経済にどのような影響を与えるか総合的な研究を行いたい。
- [活動と環境] ・学外でのフィールド研究を行いたいので、学内運営上の会議の効率化や、学外でのセミナー・会議出席などの際の事務手続きの簡素化を図って欲しい。  
・官庁等から出される公的資料が不足しているので、整備して欲しい。

## 山 本 賢 司

YAMAMOTO Kenji

助教授

- [研究領域] [領域] 理論経済学（経済動学） [キーワード] 世代重複モデル(overlapping-generations model) 生産の効率性(production efficiency) パレート効率性(Pareto efficiency)  
[領域] 理論経済学（非協力ゲーム） [キーワード] ナッシュ均衡(Nash equilibrium) 一意性(uniqueness)
- [代表的業績] “Asset Valuation and Production Efficiency in an Overlapping-Generations Model with Production Shocks,” *Review of Economic Studies* Vol. 59, No. 2, April, 1992, pp. 389-405.

“Uniqueness of Equilibrium for Smooth Multistage Concave Games,”  
*Games and Economic Behavior* Vol. 3, No. 4, November, 1991, pp. 393-402.

[研究テーマ] [テーマ] 資本財ヴィンテージと効率性：経済動学モデルによる分析 [キーワード] 世代重複モデル(overlapping-generations model) 資本財ヴィンテージ(capital vintage) 生産の効率性(production efficiency) パレート効率性(Pareto efficiency)

[教育への還元] 理論経済学の新しい研究成果を、教育に直接反映させることは難しい。しかしながら、担当科目や研究指導では、必要な考え方と基礎知識を学生に伝えるよう心掛けています。

[今後の方向性] 経済動学の研究は、sunspots, chaos and cycles, endogenous growth, multiplicity of equilibria 等をめぐって現在進められています。現在の私の研究目的は、資本財市場のもつ機能を明らかにすることです。

[活動と環境] ・各種会議の効率的な運営が必要と考えます。  
・研究旅費が少額であり、海外での学会や研究会への出席が難しい。

## 和田良介

WADA Ryosuke

助教授

[研究領域] [領域] ファイナンス、金融論 [キーワード] 金融市場、ミクロ構造

[代表的業績] Continuous Double-Sided Auctions in Foreign Exchange Market

小樽商科大学経済研究所、ディスカッション・ペーパー No. 6, 1993年

[研究テーマ] [テーマ] 外国為替ディーラーの期待収益最大化モデル [キーワード] 連続時間マルコフ・コントロール、ミクロ構造

[教育への還元] 派生商品等、新しく登場した金融商品を自分自身研究し、学生向けの練習問題を作成及び収集して授業やゼミで用いるべく努めている。

[今後の方向性] 金融市場のミクロ構造の分析のための確率的モデルを作成してゆく。

[活動と環境] 1. 既存のデータベースでは手に入らないデータを入手するために教育研究学内特別経費が利用できることになった。この点については、研究環境はよくなかった。大きな買い物をするためにこのような制度があるのは良い。  
2. 学術誌への投稿料の支払いに研究費を全く用いることができないのは改善の必要あり。半額でも研究費が使えると良い。

## 商 学 科

鵜野好文

UNO Yoshifumi

教授

[研究領域] [領域] 経営組織論

[代表的業績] 「インセンティブの歯止め効果と企業内配置転換」、『商学討究』、第44巻、第1・2合併号、1993年10月。

[研究テーマ] [テーマ] 日本的経営の経済学的分析 [キーワード] 日本的経営、インセンティブ

[教育への還元] 当面、現在の研究を教育へ還元することは考えていません。

[今後の方向性] 今まで同様に、日本的経営の経済学的モデルによる記述を進めて行くつもりです。

小田福男

ODA Fukuo

教授

[研究領域] [領域] 企業形態論 [キーワード] 株式所有、企業支配、企業集団

[領域] ロシア企業論 [キーワード] 独立採算制、民営化、自主管理

[代表的業績] 「企業形態」、片岡信之編著『要説経営学』文眞堂、1994年、「ロシア国有自動車企業の株式会社化」、『社会主義経営学会研究年報』第18号、1993年。

[研究テーマ] [テーマ] ロシア自動車企業と民営化 [キーワード] 民営化、企業家精神、  
[テーマ] ロシア・ハバロフスク企業の経営構造 [キーワード] 労使関係、新興経営者

[教育への還元] 新鮮な情報を学生に伝えるようにしている。

[今後の方向性] 研究分野における事実の収集とその一般化・理論化に努力している。

久野光朗

KUNO Mitsuro

教授

[研究領域] [領域] アメリカ会計史 (簿記史) [キーワード] アメリカ・会計史・簿記史

[領域] 物価変動会計 [キーワード] 物価変動・インフレーション・財務会計

- [代表的業績] 『アメリカ簿記史—アメリカ会計史序説』  
「資産再評価論」片野一郎編『近代会計学大系第4巻：資産会計論』中央経済社、1970年、の第10章
- [研究テーマ] [テーマ] アメリカ財務会計の生成史 [キーワード] アメリカ・会計史・財務会計  
[テーマ] 企業会計原則構造論 [キーワード] 企業会計・企業原則
- [教育への還元] 研究成果の教育への還元ということが一般であると思われるが、教育の手段（素材）としての基本的テキストを検討し、研究して教育の改善を図るべく若干の努力をしている。
- [今後の方向性] アメリカ会計史の研究について、すでにアメリカ簿記史の研究を成果として公刊したので、その後のアメリカ財務会計生成史をまとめようとしている。
- [活動と環境] (1) 研究費の絶対額が不足  
(2) 5年に1回（1年間）、せめて10年に1回（1年間）でもサバティカルの制度化  
(3) (1)とも関連するが、外国で開催される学会をも含めて、出張旅費の増額

## 篠崎恒夫

SHINOZAKI Tsuneo

教授

- [研究領域] [領域] 経営管理論史、労働過程論史 [キーワード] 管理、労働過程、方法論
- [代表的業績] 「労働過程論論争史—その方法的基底をめぐって—」『松山大学論集』第4巻、第3号、1992年11月  
「一つの労働過程論史—リトラーのレビューを中心として」『研究紀要（小樽女子短期大学）』第23号、1994年3月
- [研究テーマ] [テーマ] 「労働過程論争史」 [キーワード] 管理、労働過程、歴史、方法論
- [教育への還元] 現在の研究レベルそのものが直ちに学生への講義内容となるとは考えにくい。ただ、研究の必然性が現実に起因しているところから、現実が提供している問題性をいかに現代的テーマとして講義に組み込み、あるいは、ゼミの共同研究テーマとするかに腐心している。
- [今後の方向性] 労働現場における労働者の合意形成のメカニズムの欧米と日本の相違を明らかにする形で労働過程論史を完成させる。
- [活動と環境] (1) 大学の置かれている都市環境、自然環境は恵まれており、学内の情報機

器環境は、充分満足すべきものとなりつつある。業績発表機会や地域的な研究交流等は、近年それなりに整備されてきている。

(2) しかしながら、各論的には、整備すべき点は余りにも多い。

1) 研究費の圧倒的不足：年間30万円台の個人研究費配当では、洋書の場合、ペーパーバックの購入に偏らざるを得ない。科研費や特別経費があるとしても7-8月ごろに内定し、3月には報告書をまとめなければならないのは、個人研究費の不足を補うにしては、年間研究ペースの乱れをもたらすデメリットが大きく、応募の意欲を減殺する。複年度支出を可能としたり、継続分の増加を望む。

2) 研究旅費：年間2回の学会出張旅費に満たない額は、学会の分化傾向に対応していない。科学研究費補助金の中での流動的な使用が望まれる。

3) 情報機器環境は整いつつあるとはいいながら、ハードとソフトをスムーズに研究体制にマッチさせるためのアシスト体制の強化が望まれる。

### 田 中 良 三

TANAKA Ryozo

教 授

[研究領域] [領域] 企業内容の開示と監査 [キーワード] ディスクロージャ制度  
[領域] 会計情報の利用 [キーワード] 支払能力分析

[代表的業績] (1) セグメント情報の開示  
証券取引法監査と商法監査

(2) 支払能力分析の理論と実証的分析

[研究テーマ] [テーマ] 企業の社会的責任とディスクロージャ [キーワード] コーポレート・ガバナンス

[教育への還元] 大学院の講義「会計制度論」において、監査制度とコーポレート・ガバナンスの問題を取上げている。

[今後の方向性] 企業の社会的責任の観点から、コーポレート・ガバナンスの日米欧比較検討をなし、日本にとって望ましいディスクロージャ制度と監査制度の確立に役立てたい。



## 中 善 宏

NAKA Yoshihiro

教 授

- [研究領域] [領域] 管理会計情報が組織成員の態度、モチベーションおよび業績におよぼす影響の研究 [キーワード] 行動会計、業績管理会計
- [代表的業績] 「予算管理におけるスラック形成傾向の検討」『商学討究』1987年2月  
「責任会計と予算差異の原因の知覚」『商学討究』1991年12月
- [研究テーマ] [テーマ] 管理会計システムにおける管理者行動の国際比較 [キーワード] 管理会計システム、会計情報、予算管理および文化
- [教育への還元] 管理会計システムにおける人間行動の研究の必要性はつねに指摘されている。このことに関するこれまでの研究成果を教育活動の中で学生その他に伝達することは、本学において独自の会計教育を行うための一端となると考えている。そのための努力は、通常の講義の中で行われており、教材その他の形でつねに研究成果の還元を試みている。
- [今後の方向性] 今後の研究は、管理会計システムの国際比較の観点を取り入れることになろう。しかしながら、当面の主たる重点は、これまで蓄積してきた研究成果の整理・公表にある。
- [活動と環境] 研究活動は、つねになんらかの制約の下に行われるであろう。私にとって現在の研究条件は、さしあたり満足すべき状態にある。研究費・研究旅費の制限はともかくとして、最近における本学の研究施設、とくに情報処理施設の面では、かなり改善されてきていると感じる。

## 山本 真樹夫

YAMAMOTO Makio

教 授

- [研究領域] [領域] 会計測定の基礎理論 [キーワード] 会計測定、会計構造、記号論的アプローチ
- [代表的業績] 著書『会計情報の意味と構造』同文館、1992年
- [研究テーマ] [テーマ] オフバランス取引の認識と測定 [キーワード] オフバランス取引、会計測定
- [教育への還元] 現在、簿記論および財務会計論を担当しているが、私自身の研究テーマはこれらの講義内容と密接に関連している。研究過程で収集した財務諸表等の資料をできるだけ授業でも紹介し、学生に問題提起をしたいと思っている。

[今後の方向性] 著書で提示した会計測定の基本理論を、オフバランス取引などの具体的でかつ論議のある事例の分析に用い、現行の会計測定の問題点をさらに明確にしていきたい。

[活動と環境] 現在特に感じていることは、大学改革等に伴う学内の委員会やその他の事務的作業に多くのエネルギーをとられ、また授業数も増加したため、授業の準備や自らの研究に納得のいくエネルギーを傾注できないことである。

## 渡 辺 和 夫

WATANABE Kazuo

教授

[研究領域] [領域] リトルトンの会計思想 [キーワード] リトルトン

[代表的業績] 著書『リトルトン会計思想の歴史的展開』（同文館）

[研究テーマ] [テーマ] コーラーの会計思想 [キーワード] コーラー

[教育への還元] 研究と教育は一体的な関係にあるといえよう。どちらか一方だけに専念するような態度は大学教官として好ましくない。研究成果は教育に生かすことが必要である。このような考えから、「商学概論」「簿記論」「財務会計論」等の講義では、研究成果の一端を取り入れる努力をしている。

[今後の方向性] リトルトンとコーラーはいずれもアメリカにおける伝統的会計学を構築した人びとである。彼らの会計思想はわが国にも大きな影響を与えた。どのような影響を与えたかを今後研究したいと考えている。

[活動と環境] 研究費の弾力的な利用が可能になればよいと思う。

<理由>年度によって必要なときとそうでないときがある。必要なときにまとめて利用できるような方法があれば便利だと思う。

## 穴 沢 眞

ANAZAWA Makoto

助教授

[研究領域] [領域] アジアの低開発国、特にマレーシアの経済発展と工業化 [キーワード] アジア、マレーシア、工業化

[領域] 多国籍企業による直接投資と受け入れ国の工業化 [キーワード] 多国籍企業、直接投資、企業間ネットワーク

[代表的業績] "Free Trade Zones in Malaysia," HOKUDAI ECONOMIC PAPERS, Vol. 15, 1985-

86.

"Japanese Manufacturing Investment in Malaysia," in Jomo.K.S.ed.  
*Japan and Malaysian Development*, Routledge, London, 1994.

[研究テーマ] [テーマ] マレーシア自動車産業における下請け企業育成 [キーワード] マレーシア、自動車、下請け、系列、vendor

[テーマ] 日系企業の企業内及び企業間ネットワークの形成 [キーワード] 日系企業、ネットワーク、技術移転、生産分業、現地企業、系列

[教育への還元] 先端の研究成果を学生に分かりやすく解説することも大学教育においては必要であり、講義および研究指導において自らの研究成果の一端を含めて提示するよう心がけている。

[今後の方向性] 低開発国の工業化に対する外的要因、特に多国籍企業の役割を多国籍企業と現地企業の企業間ネットワークの形成という視点から考察する。

[活動と環境] 研究の性格上国内では東京、大阪方面での研究会の出席の必要があり、さらに海外での調査が必要であるが、そのための旅費の工面に苦慮している。研究旅費の使途に制約があり旅費に転用できないが、少なくともこの点の改善が望まれる。

伊 藤 一

I T O Hajime

助教授

[研究領域] [領域] 流通システム論 [キーワード] 小売構造論、リレーションシップ・マーケティング、流通生産性、商取引慣行、ローコストオペレーション

[領域] 流通政策論 [キーワード] 規制緩和 ニュービジネス事業展開、流通行政

[代表的業績] 『ニュービジネス白書' 93』ニュービジネス協議会；通産省監修、東洋経済新報社 平成4年、『わが国の流通の現況と課題』（共著）日本生産性本部、平成5年、『スーパー・ホームセンターにおける生産性向上の考え方と取り組み』（共著）社会経済生産性本部、平成6年。

[研究テーマ] [テーマ] 中堅GMS, D I Y企業（主に道内企業）のローコストオペレーションや低価格商品開発の取り組みについて分析 [キーワード] プライベートブランド戦略、ECR, EDI, ローコストオペレーション

[テーマ] N B企業の経営戦略：ニッチ的な事業分野を発掘し、事業化するプロセスの研究 [キーワード] ニュービジネスのニッチ戦略

- [教育への還元] ・研究活動で関係を持ったビジネスマンに講義の中、ケーススタディーとして講演してもらう。  
 ・企業からのヒアリングケースを講義に利用し理論と現実ビジネスとの融合をはかる。
- [今後の方向性] ・ECR, QREDIなどによる流通ローコストオペレーション活動の解明。  
 ・小売業による新製品開発企画(PB)のチャンネル内情報共有、企画組織と製品開発技術力についての分析
- [活動と環境] 研究旅費の増額は不可能な状態では、少なくとも電話での情報収集が容易なように、研究室内電話のダイヤルイン方式に移行し、夜間でも通話できるようにしてもらいたい。

## 井村進哉

IMURA Shinya

助教授

- [研究領域] [領域] 証券市場論、財政金融論、金融システム論 [キーワード] 証券化(セキユリタイゼーション)、公的金融、金融再編
- [代表的業績] 「アメリカの住宅金融市場と金融機構の再編—政策金融主導型の金融革新・セキユリタイゼーション過程—」『証券研究』第81巻、1988年1月  
 「アメリカにおける貯蓄金融機関(スリフト)危機と銀行再編の構造」『証券研究』第107巻、1993年11月
- [研究テーマ] [テーマ] ①金融システムにおける産業組織的特性とリスクに関する研究  
 [キーワード] 金融システム、産業組織、金融リスク  
 [テーマ] ②日米の株価形成メカニズムに関する実証的研究 [キーワード] 株価、投資尺度
- [教育への還元] 特に②のテーマに関連して、今年度の証券市場論の講義で株価形成論について拡充した議論を展開している。「還元」は当然のことであり、主として、日米の比較研究、実証研究の成果を講義内容に反映させている。
- [今後の方向性] 金融・証券業の再編に関する実証的研究を推進するとともに、金融システムの日米比較についての研究をまとめる。
- [活動と環境] ○研究費、特に基礎的研究費が不足しており、増額すべきである。  
 ○研究施設、図書館における継続的図書購入予算に制約があり、統計資料の不ぞろいが目立つ。  
 ○業績発表機会、学会交流等に問題はない。

黄 磷

HUANG Lin

助教授

[研究領域] [領域] 流通システム論 [キーワード] 市場、取引、関係、流通構造、流通機能

[領域] マーケティング論 [キーワード] グローバル・マーケティング、イノベーション、グローバル標準化

[代表的業績] 『中国の流通システム』日中経済協会、1990 (共著)

『流通空間構造の動態分析』千倉書房、1992

『外資系企業』同文館、1994 (共著)

『入門インターネット』日本能率協会、1995 (共著)

[研究テーマ] [テーマ] 流通と経済発展 [キーワード] 経済の市場化、市場発達

[テーマ] グローバル・マーケティング [キーワード] 外資系企業、現地適応化、マーケティング・イノベーション、小売業の国際化

[教育への還元] 企業の市場行動を理解するためにその実態を実証的に明らかにする必要がある。ゼミならびに多人数の授業においても実証分析の方法論と重要性について講義を行うようにしている。

[今後の方向性] ○経済発展の過程における流通システムの発展を理論化する。

○アジア、特に中国における日系企業の市場行動を理論化する。

[活動と環境] ○おおむね好ましいものと感じている。

○関連テーマについて教官間での情報交換の必要性も感じている

○地元(地域社会)経済への貢献についてより多くの教官がかかわっていく必要があるように思う

○大学の国際化についても、より多くの教官・職員がかかわっていく必要があるように思う。

高 田 聡

TAKATA Satoshi

助教授

[研究領域] [領域] アメリカ経営・労働史 [キーワード] 自動車産業、フォード、GM、クライスラー、UAW

[代表的業績] 「GM社における大衆車市場への参入」『商学討究』第42巻第4号、1992年、"Sit-Down to Split: Flint GM Workers in 1937-1939", Discussion paper

(小樽商科大学経済研究所)、1994。

[教育への還元] 例えば、自論文を印刷、配布し、講義資料として活用する等している。

[活動と環境] 商学討究への十分な財政補助が望まれる。

## 高橋正泰

TAKAHASHI Masayasu

助教授

[研究領域] [領域] 組織コンフリクト [キーワード] 役割コンフリクト、コンフリクトの解消、コンフリクト・マネジメント、管理者の役割

[領域] 組織シンボリズム [キーワード] シンボリズム、組織文化、パラダイム、メタファー、認知

[代表的業績] 「日本的経営にみるコンフリクト」『経営論集』（明治大学）第29巻第4号、1982年「組織シンボリズム－組織論の新しい視角－」『経営学の組織論的研究』共著、白桃書房、1991年

[研究テーマ] [テーマ] 組織シンボリズムと組織論 [キーワード] 組織方法論、機能主義、解釈主義、組織認識

[テーマ] 組織におけるジェンダー [キーワード] 性、女性、差別、組織特性、社会構造、ジェンダー・ニュートラル

[教育への還元] 現在行っている研究を出来るだけ教育に還元していくことが重要である。現在のテーマから得られた最新の内容を、講義およびセミナーにおいて出来る限り紹介している。その際には、これまでの研究の経緯とそのテーマのもつ意義を様々な考え方（パラダイム）とあわせて説明し、学生の思考方法の訓練と確立を促すことを念頭においている。

[今後の方向性] これまでの研究を踏まえて、経営学における組織の問題を偏った視点からではなく、さまざまなパースペクティブから統合的に研究を行うことを志向している。具体的には、組織のグランド・セオリーの確立（機能主義と解釈主義の関連）と特定研究テーマ（現時点では、ジェンダー問題）の実証分析である。

[活動と環境] 基本的に、現在の研究環境は不十分である。

1. 実証研究を行うには現在の研究費では大幅に不足である。特に、今後の海外との関係を考えれば、外国での学会への出張など、海外出張旅費などへの旅費の使い方と小樽という地理的な状況からして国内出張費を含め、その増額が必要である。

2. 情報処理関係とそれに付随する学内のネットワークがかなり整備されつつあるが、学外との情報通信の関連を含めて、さらなる充実が必要である。

3. 一層の国際化にあわせて、一段の国際交流と留学生受け入れのための施設と研究スタッフの充実が必要である。

## 高宮城 朝 則

TAKAMIYAGI Tomonori

### 助教授

- [研究領域] 〔領域〕流通成果の理論的・実証的研究〔キーワード〕流通成果、流通費用、流通生産性・効率、社会的成果  
〔領域〕小売業の国際化行動分析〔キーワード〕小売業、国際化、グローバル小売業、フランス
- [代表的業績] 「流通成果研究の課題」『商学討究』、第39巻1号、昭和63年8月。  
「フランス小売業の国際化」『日仏経営学会誌』、第10号、平成5年5月。
- [研究テーマ] 〔テーマ〕①卸売業の戦略展開と経営基盤に関する実証研究〔キーワード〕卸売業、取引関係、資源展開、戦略ドメイン  
〔テーマ〕②比較マーケティング論〔キーワード〕流通システムの構造・行動・成果、国際比較
- [教育への還元] 研究課題の設定について、その教育への還元・効果ということは明確には意識していません。しかし、マーケティング・流通という専攻分野の性格上、研究内容に関わる成果は教育の内容・質を高めることに直結しています。特に研究指導や大学院における教育には自分の研究課題やその内容が役立っていると考えます。
- [今後の方向性] 当面は現在の研究テーマ①に関する研究成果を1～2年に出すことに専念し、またテーマ②の理論的検討を蓄積していく計画です。その後①と②を統合する方向を考えています。
- [活動と環境] ・研究費  
学内・学外の諸研究費は実際の執行可能時期が年度途中までずれ込み、当初の計画通りに研究を遂行出来ないことがしばしばです。特に実証研究の際には年度前半では実行不可能であり、十分な研究成果を達成しないうちに年度末の成果報告を行うということになっています。  
・研究施設など  
研究の遂行上諸々の支援を得たいと願います。特に近年は学内行政・事務処理などに多大な時間を割かれ、十分な研究時間をとれないのが実情です。また実証的研究を中心としているため研究遂行面でも人的なサポートを必要としています。

## 中 浜 隆

NAKAHAMA Takashi

助教授

[研究領域] アメリカにおける生命保険事業〔キーワード〕生命保険会社、商品革新、資産運用、収益性、資産・負債管理、監督規制

[代表的業績] 『アメリカの生命保険業』同文館出版、1993年

[研究テーマ]〔テーマ〕アメリカにおける健康保険市場の構造と改革〔キーワード〕健康保険市場の構造、医療費抑制、健康保険の収益性、健康保険市場の改革

[教育への還元] 研究成果は教育（講義、研究指導）に積極的に還元されなければならないと考えている。そのために、歴史的な展開を考慮しながら保険事業の現状を追跡し、それに対してどのような研究が行われ、その成果が得られているのかについて、自身の研究成果とともに国内外のそれもフォローするようにしている。

[今後の方向性] 歴史的な展開を考慮しながら保険事業の現状を把握し、理論構築をはかっている。また、歴史を振り返りながら、今後の方向性を考えている。

[活動と環境] 学内の研究費の増額と研究施設の充実（学内外の図書館の文献に対する検索システムの整備）をはかっている。

## 中 村 竜 哉

NAKAMURA Tatsuya

助教授

[研究領域]〔領域〕最適資本構成理論〔キーワード〕資本構成、資本コスト、財産権、所有権

[代表的業績] 「一株一議決権と単純な多数決ルール最適性について」『商学討究』第45巻、第2号、1994年 「所有構造、企業者インセンティブと日本的組織システム」『商学討究』第45巻、第1号、1994年 「『企業グループ』の存在が与える財務的効果についての一考察」日本経営財務研究会編『経営財務研究双書14』中央経済社、1993年

[研究テーマ]〔テーマ〕不完備契約理論と資本構成理論〔キーワード〕不完備契約、財産権、所有権、資本構成

[教育への還元] 自己の能力を高めることが良い教育に自然とつながると考えるので、専門能力の向上を目標としている。

[今後の方向性] Ph. Dの取得と理論モデル分析への特化

[活動と環境] 主要領域の経営財務学会の会員が北海道には私の他にはおらず、部会がないことが残念である。他については満足している



## 福島 吉春

FUKUSHIMA Yoshiharu

助教授

- [研究領域] [領域] イギリスにおける原価計算の発展 [キーワード] イギリス、原価計算、歴史
- [領域] 原価計算および管理会計理論 [キーワード] 原価計算、管理会計
- [代表的業績] 「レリバンス・ロスト時代の管理会計（論）発達史」『商学討究』1994年1月、  
「ソフトウェア・ライフサイクルと原価管理の課題」岡本清編『ソフト・サービスの管理会計』中央経済社、1993年4月所収。
- [研究テーマ] [テーマ] イギリスにおける原価計算の発展 [キーワード] イギリス、原価計算、歴史
- [テーマ] 現代の原価計算および管理会計理論 [キーワード] 原価計算、管理会計
- [教育への還元] もともと歴史的研究は授業およびゼミナールにおける挿話として適切なものと考え、できるだけ話題として話すようにしている。また学会に出席したあとでは、いまだのようなことが話題になっているか話している。
- [今後の方向性] 19世紀のイギリス原価計算発達史については、だいたい研究が終了したので、まとめたい。また他方でアメリカにおける歴史と現代的テーマにも手を広げたい。
- [活動と環境] 古書の購入手続を簡略化してもらいたい。

## 松本 康一郎

MATSUMOTO Koichiro

助教授

- [研究領域] [領域] ドイツ貸借対照表論 [キーワード] 貸借対照表論、経済的利益、ドイツ
- [領域] 国際会計論 [キーワード] 国際会計、国際連結、外貨換算
- [代表的業績] 「資本価値貸借対照表の機能」『商学討究』第44巻、第3号（1994）「国際連結における外貨換算会計の問題点」『商学討究』第38巻第3・4合併号（1988）
- [研究テーマ] [テーマ] 資本理論貸借対照表の構造と機能 [キーワード] 収益価値、経済的利益、資本理論的貸借対照表
- [教育への還元] 自らの研究成果を教育とくに自らの講義やゼミナールにおいて還元を図ること

は当然である。具体的にはテキストを講義するのではなく、自らの作成による講義資料（研究成果を踏まえた）を配布しながら、テキストで講義することに努めている。

[今後の方向性] 資本理論的貸借対照表の基本的構造を明らかにし、それから導かれる当該貸借対照表計算の機能と限界、さらには、現行貸借対照表計算との関わりを示したい。

[活動と環境] ・研究費の絶対額の不足  
・雑誌購入費の負担に伴う個人研究費の不足  
・基本的データベースを大学全体として整備しようとする姿勢のないこと  
・データベース等の媒体変化（CD-ROM、フロッピー化）に伴う予算（会計）措置の対応ができていないこと（レンタル予算に対応不可の現状は早急に解決の必要あり）。

## 李 濟 民

LEE Jemin

助教授

[研究領域] [領域] 国際経営 [キーワード] グローバリゼーション

[領域] 比較経営 [キーワード] 日・韓の企業比較

[代表的業績] “Globalization Trends and International Corporate Collaborations,”  
“A Comparative Look at Korean DTCs with Japanese Counterparts,”

[研究テーマ] [テーマ] 中小企業の系列及び国際化 [キーワード] 系列を越えて

[教育への還元] 企業環境の新しい変化を注視することによって、その研究テーマが常に教育にフィードバックできるように努力している。

[今後の方向性] 企業の比較研究分野を日・韓のみならず他の国及び地域へ拡大し調査することによって日本企業の真の姿や方向性をさぐる。

[活動と環境] 研究費等がかならずしも充分とはいえないが、他の国の事情と比べてそんなに悪くないと思われる。研究体制においての不備の故に（特に日本の国立大学）ルーチンな事務処理等の仕事がかかり負担になっている。

## 齋 藤 一 郎

SAITO Ichiro

助手

[研究領域] [領域] 銀行の収益メカニズムと行動様式に関する研究 [キーワード] 利潤に

対する要求態度、貸付可能資本の形成、銀行を巡る3つの貨幣フロー、銀行の私企業性と業務の公共性

[代表的業績] 「80年代における全国銀行の貸付可能資本形成能力」『証券経済学会年報』第29号、1994年5月

「銀行の収益メカニズムと行動パターン」『商学討究』第45巻、第2号、1994年11月

[研究テーマ] [テーマ] 80年代以降における邦銀の国際業務展開について〔キーワード〕海外拠点の展開と再編、海外拠点のバランスシート構造、本支店間における資金フロー

[テーマ] 北海道における金融の地域構造〔キーワード〕北海道の金融ストック構造と域際資金フロー、道内における金融空間の分布、金融機関の店舗配置と域内資金フロー

[教育への還元] 研究成果の教育への還元については、基本的にはそうすることが望ましいと考えています。しかしながら、それをダイレクトに行うことは、教官の独善的ないしは自説偏重的な教育につながる可能性もあります。研究を教育へ還元するためには、学生が研究成果を批判的に摂取するに足る基礎科目の充実と学生による教官の評価システムが必要であると考えています。

[今後の方向性] 銀行を中核とするわが国の重層的（地域－全国－国際）資金フロー構造の解明

[活動と環境] 現状において、学内外の研究環境は概ね良好です。

## 野 口 昌 良

NOGUCHI Masayoshi

助手

[研究領域] [領域] 英国財務会計史〔キーワード〕英国会社会計、英国勅許会計士

[代表的業績] 「1920年代中葉から30年代初頭における英国の会計士責任論－会計士界の長老プレnder卿についての一考察－」『日本会計史学会年報』第11号、1993年

[研究テーマ] [テーマ] 英国財務会計士〔キーワード〕英国会社会計

[教育への還元] 助手職位のため、本学の教育活動には、正規には従事していないので、現在のところは論ずる立場にない。

[今後の方向性] 現在の研究の延長

# 企業法学科

青竹正一

AOTAKE Shoichi

教授

[研究領域]〔領域〕商法・会社法〔キーワード〕株式、株主、株主総会、取締役

[代表的業績] 著書『小規模閉鎖会社の法規整』文眞堂、昭54、『続小規模閉鎖会社の法規整』文眞堂、昭63、『現代会社法の課題と展開』中央経済社、平成7

[研究テーマ]〔テーマ〕商法・会社法の現代的課題の研究〔キーワード〕種類株、新株の不正発行

秋山義昭

AKIYAMA Yoshiaki

教授

[研究領域]〔領域〕国家賠償の法理論〔キーワード〕国家賠償法、故意・過失、収用類似の侵害

〔領域〕行政訴訟〔キーワード〕行政事件訴訟法、原告適格、違法性

[代表的業績] 『国家補償法』ぎょうせい、昭和60年、「取消訴訟における違法事由の主張制限」『行政法の諸問題(中)』有斐閣（平成2年）所収。

[研究テーマ]〔テーマ〕行政救済の法理〔キーワード〕無過失責任、加害行為の違法性の態様

[教育への還元] 研究の成果は、講義を通じて学生に還元されるべきものとする。ただし、いたずらに専門的になることを避け、一般化した形で、教育に反映するよう努力している。

[今後の方向性] 現在のテーマを一層深める方向で研究を進めたい。

[活動と環境] 1. 研究以外の用務に忙殺され、研究はおろか、教育にも充分時間が割けない状態である。学内全体でできるだけ負担の平等を図るべきものと思う。

飯田勝人

IIDA Katsuto

教授

[研究領域]〔領域〕国際取引における信用状・保証状〔キーワード〕信用状

〔領域〕 国際取引における統一規則〔キーワード〕 統一規則

[代表的業績] ①東京銀行編『新版貿易と信用状』（共著）実業之日本社、1987年。

②「信用状」および「送金」、高桑昭＝江頭憲治郎編『国際取引法（第2版）』  
青林書院、1993年。

[研究テーマ]〔テーマ〕手形法・小切手法の日米比較〔キーワード〕日米手形法・小切手法

[教育への還元] ①研究を教育に還元することは、教官の必須要件および義務である。②学部・  
大学院での講義に資料等をも公開し、研究成果を示すとともに、学生とともに  
さらに研究する心がまえである。

[今後の方向性] 国際取引の多い日米間において用いられる手形・小切手の法を、米国における  
改正法を視野に入れて研究したい。

[活動と環境] ①文献情報サービス（他大学・研究機関からの資料の入手）は良好である。

②研究費増を望んでいる。

## 神 田 孝 夫

KANDA Takao

教 授

[研究領域]〔領域〕相続法〔キーワード〕包括承継、遺産の範囲

〔領域〕不法行為法〔キーワード〕企業の不法行為、無過失責任、使用者責任、  
共同不法行為

[代表的業績] 遺産の範囲（中川善之助追悼「現代家族法大系4」有斐閣）『使用者責任』一  
粒社1987年、『不法行為責任の研究』一粒社、1988年。

[研究テーマ]〔テーマ〕「使用者責任の総合的研究」〔キーワード〕使用関係、「事業ノ執  
行ニ付キ」、代理監督者。

〔テーマ〕「共同不法行為」の研究〔キーワード〕関連共同、競合的不法行為、  
因果関係、「連帯」責任

[教育への還元] とくに意識してはいないが、平素の研究成果が講義に反映されることになるの  
は当然のことである。

[今後の方向性] 企業活動に伴う不法行為責任の問題をあらゆる側面から分析・検討し、とりま  
とめたい。

[活動と環境] 全体的に研究費が不足しており、必要な文献を手元におけず、研究上支障をき  
たしている。研究旅費が不足しているため、遠隔地の研究者との交流が十分で  
きない。学会、研究会等への出席にも制約がある。中央から遠く離れている北  
海道の研究者には、研究旅費につき特段の配慮が欲しい。

久々湊 伸 一

KUKUMINATO Shin-ichi

教授

[研究領域] [領域] 視覚芸術的著作物の著作権 [キーワード] 建築著作物、映画著作物  
[領域] インダストリアル・デザインの保護 [キーワード] 応用美術、意匠権

[代表的業績] 「映画著作者決定のための一考察」『著作権研究』1号、昭42年、「西ドイツにおける頒布権の構成」『著作権研究』13号、昭和61年、「意匠法と著作権法との限界領域あるいは競合について」『国際工業所有権法研究』昭53年。

[研究テーマ] [テーマ] 学術著作物の著作権保護 [キーワード] コンピュータ・プログラム、学説の保護。

[教育への還元] 専門的な狭い知識もこれを掘下げると普遍的になる。この普遍的でかつ具体的な事例を講義において示せば、現在の進んだ知識を理解可能に示すことができる。

[今後の方向性] 5年の学究生活は、1つのテーマの資料を集めたという域に止まる。退官後その資料をまとめたいと思うが、どうなるか

[活動と環境] 本学の図書の分類は、独特のものである。その価値も認めるが、一般的な分類に切換えることのメリットもあるように思われる。学究の思考方法を転換することにも係ってくる問題だと思う。

島 田 陽 一

SHIMADA Yoichi

教授

[研究領域] [領域] 非典型的労働契約の日仏比較 [キーワード] 有期労働契約、派遣労働契約、パートタイマー

[領域] 使用者の労務指揮権と労働者の私的領域 [キーワード] 労務指揮権、労働契約、労働者のプライバシー

[領域] 日本型雇用慣行と労働法 [キーワード] 日本型雇用慣行、立法政策

[代表的業績] 「フランスの派遣労働法制」『季刊労働法』169号1993年、「労働者の私的領域確保の法理」『法律時報』1994年8月号。「日本型雇用慣行と法政策」『日本労働研究雑誌』1995年6月号

[研究テーマ] [テーマ] 同上

[教育への還元] 私の研究内容は、労働法の現代的課題に関わるものであるので、毎年の講義・

ゼミにとりいれている。

[今後の方向性] 当面、前記のテーマを徹底的に追及する。

[活動と環境] 北大において毎週研究会が開かれており、また、東京でのインターカレッジの研究会にも参加の機会があるので、発表機会に不満はない。研究室も、次第に手狭になっているが、さしあたり問題がない。研究費については、絶対的に不足している。現在、洋雑誌（月間）1、和雑誌5誌（月2回刊2、月3回刊1、季刊2）をとるなど、年間に少なくみても40～50万円、私費を研究費にあてている。

## 結 城 洋一郎

Y U U K I Youichirou

教授

[研究領域] [領域] J. J. ルソーの人民主権理論 [キーワード] 人民主権

[領域] 憲法制定権力と憲法の概念 [キーワード] 憲法制定権力

[代表的業績] 「わが国の憲法変遷論に関する一考察」『法経研究』31巻3・4号, 1983年3月 「ロックとルソーとモンテスキュー」杉原泰雄編『憲法思想』勁草書房, 1989年 「実質的憲法概念と憲法の効力」杉原泰雄教授退官記念論集刊行会編『主権と自由の現代的課題』勁草書房, 1994年

[研究テーマ] [テーマ] 基本的には一貫して人権を保障しうる国家構成の原理を追求している。 [キーワード] 人権と主権

[教育への還元] 研究を基礎としての教育であるから、特に教育のための課題を設定してはいない。但し、通常の講義では個人的研究テーマにとらわれず、できるだけ分かり易い講義を目指し、ゼミナールでは学生向けに設定した課題をできるだけ深く掘り下げようと心がけている。

[今後の方向性] ルソーによって定式化された人民主権原理の現実的可能態を、人権と主権との複合的観点から追求すること。

[活動と環境] ①議事録等の第一次資料は高価なため個人研究費で賄うことは不可能である。②現在の研究旅費では年2回の学会出席をカバーできない。③海外研修の門戸が特に団塊の世代付近の研究者に対して著しく狭い。

## 和田 健夫

WADA Tateo

教授

[研究領域] [領域] 経済法 [キーワード] 独占禁止法、競争法、経済規制法

[代表的業績] ①「戦後西ドイツにおけるカルテル規制の変遷(1)～(5)」『北大法学論集』31巻2号～34巻5号 ②『流通産業と法』(共著)正田彬編・現代経済法講座第6巻(三省堂)、1992年 ③『論争独占禁止法』(共著)(風行社)1994年。

[研究テーマ] [テーマ] カルテル規制に関する研究 [キーワード] カルテル、競争政策の実効性

[教育への還元] 特別な課題は設定していない。法律学は常に新しい問題に目を向け、理論化の試みを怠らないようにしなければ研究の意義を失う。教育はその延長線上にあるものであって、研究の水準と教育内容は不可分の関係にある。あえて「特別な課題」をいうなら、それは、さらなる研究、自己の研究水準の向上ということになる。

[今後の方向性] 現在の研究テーマをさらに追求すること。

[活動と環境] 文部省に対し研究費の増額を望む

## 石黒 匡人

ISHIGURO Masato

助教授

[研究領域] [領域] 行政法、租税法

[代表的業績] 「フランス行政裁判所における全面審判訴訟(1)」『北大法学論集』第38巻2号、「納税申告における過誤の客観的明白性について」『社会科学研究』(釧路公立大学紀要)第6号

[研究テーマ] 行政事件訴訟における抗告訴訟と公法上の当事者訴訟の関係

[教育への還元] 研究が専門化しており、「教育への還元」レベルとのギャップが大きくなっているが、還元の必要性は非常に高いと考えている。そこでは研究の教育への還元には止まらず、教育から研究へとフィードバックの関係になろう。それは、専門化した研究(テーマ)と基本的でそれ故に本質的な問題との関係を絶えず検証し、後者についての通説を洗い直す作業によってのみ可能になると思われ、これに努めているが、非常に難しい。

[今後の方向性] これまでの研究を深めていくということで、新しい方向についての構想は特に



ない。

[活動と環境] 本学での研究活動は半年強に過ぎず、まだよくわからない点が多いが、研究費、特に図書・雑誌等の購入費が不十分と感じる。

## 猪 股 弘 貴

INOMATA Hiroki

助教授

[研究領域] [領域] 憲法 [キーワード] 憲法

[代表的業績] A. V. ダイシー (猪股弘貴訳) 『ダイシーと行政法』1992年、「司法と憲法上の政策形成(一)・(二・完)」早稲田法学61巻2号・68巻3・4号

[研究テーマ] [テーマ] 憲法解釈方法論 [キーワード] 憲法、解釈

[教育への還元] 講義の中において、研究成果を、できるだけわかり易く学生に紹介している。すべてではないにしても、学生に理解可能な範囲で還元する必要性は大いにあると考えている。

[今後の方向性] まず、アメリカにおける憲法解釈論争を研究・紹介し、次に、わが国における憲法解釈ないしは憲法判断についての一般理論を構築したいと考えている。

[活動と環境] 研究費が低すぎるので早急に改善することを望みたい。

## 日 木 豊

USUKI Yutaka

助教授

[研究領域] [領域] 共犯論 [キーワード] 刑法総論、共犯、正犯、共謀共同正犯

[代表的業績] 「正犯概念と共謀共同正犯(1)(2)」『上智法学論集』32巻1号、34巻1号

[研究テーマ] [テーマ] 不作為と共犯 [キーワード] 刑法総論、不作為犯、共犯、正犯  
[テーマ] 電子計算機詐欺罪 [キーワード] 刑法各論、財産犯、詐欺罪、電子計算機詐欺罪、コンピュータ犯罪

[テーマ] ドイツにおける安楽死・尊厳死論 [キーワード] 刑法総論、刑法各論、殺人罪、自殺関与罪、同意殺人罪

[教育への還元] 学生に対する教育は「広く浅く」であるのに対し研究は「狭く深く」であって両者は本来調和しがたい面があるし、特に本学では科目設定上余裕のない分野(私の担当する刑事法など)があり、そのような分野では個々の研究を教育へ還元するのは極めて困難である。「研究の教育への還元」とは、研究の蓄積により教官の教育能力が総合的に高まるという間接効果において考えるべきことである。なお、各教官が個々の研究を教育に直接的に活かせるようにするには、

各科目にさらに「特殊講義」を常設することが適当であるが、負担の関係で現状では不可能である。これを可能にするには、各教官の大幅負担減をはかる、教官定員大幅増をはかるといった抜本的な改善が必要と思われる。

[今後の方向性] 短期的な計画はあるが、長期的な方向性は未定。

[活動と環境] 研究環境にはかなり問題がある。

まず、研究費・旅費とも十分ではない。とりわけ、同分野の教官が学内にいない場合、分野の必要文献を1人分の研究費でまかなわねばならない、共同研究や資料収集等の点で困難をきたすなど、研究費・旅費が少ない弊害は特に大きい。

また、研究施設も不十分である。他学では通常各学部ごとに教官用の資料室があるが、本学にはそれがない。本学でも、図書館とは別に、各学科に教官用の専門資料室が必要である。さらに、他学よりもかなり多い授業負担も研究上大きな障害である。概論科目の短縮や授業期間の短縮など近々改善が実現されそうな点もあるが、さらにゼミ制度のあり方も再考すべきである。現行の方式は、教官に負担が重すぎるのはもちろん、授業時間割を圧迫する、学生が専門講義を十分履修しないうちに開始するなど、問題が多い。

[その他] 以上の諸問題は、根本的には本学が小規模単科大学であることに起因しているといえる。多くは予算、教官定員などに関係しているからである。根本的な解決方法としては、小規模単科大学という本学のあり方自体を再考する必要があると思われる。

## 桑原 康行

KUWAHARA Yasuyuki

助教授

[研究領域] [領域] 商行為法（商取引法） [キーワード] 荷為替信用状

[領域] 国際取引法 [キーワード] Lex Maratorianの理論

[代表的業績] 「荷為替信用状の譲渡」『一橋論叢』95巻、2号 国際取引法における Lex Maratorian の理論 (1)、(2)、(3・完) 『商学討究』39-1、42-1、43-1・2

[研究テーマ] [テーマ] EC企業法等 [キーワード] 契約準拠法等

[教育への還元] 特に大学院の講義で、研究上の成果を理解させるようにしたい。

[今後の方向性] 国際私法、国際商事仲裁について研究したい。

[活動と環境] 内外の書籍をそろえるためには、研究費が不足している。

## 田 邊 宏 康

TANABE Hiroyasu

助教授

[研究領域] [領域] 民事法学 [キーワード] 民事法

[代表的業績] 「裏書によらない手形の譲渡」『西南学院大学大学院法学研究論集』第9号：  
「株主総会決議を否認する判決の遡及効」『西南学院大学大学院法学研究論集』第10号：  
「裏書禁止手形における権利と証券との結合関係」『商学討究』第44巻第1・2合併号：  
「監査役会の法制化と監査役の独任制」蓮井良憲先生・今井宏先生古稀記念、『企業監査とリスク管理の法構造』平成6年、法律文化社所収：  
「有価証券と実定法規に関する若干の検討」『商学討究』第45巻第3号

[研究テーマ] [テーマ] 商法 [キーワード] 商法

[教育への還元] 学会の現在到達している水準を客観的に還元していくことが必要と考えており、その過程において自分の研究も、必要に応じて還元しているつもりである。

[今後の方向性] 有価証券法に関する諸外国における最近の理論を考察しつつ、「有価証券における化体要素の後退」、「有価証券のペーパーレス化」といった現象に適合する有価証券法理を模索する。

[研究環境] ほぼ満足している。

## 中 村 恵

NAKAMURA Megumu

助教授

[研究領域] [領域] 宇宙国際法 [キーワード] 宇宙法、宇宙条約、放送衛星、リモートセンシング

[代表的業績] "Consultation Regime in Space Law", Proceedings of the 35th Colloquium on the Law of Outer Space, August 1992. 「宇宙開発と共通利益」 大谷良雄編著『共通利益概念と国際法』国際書院、発行平成5年11月所収

[研究テーマ] [テーマ] 宇宙開発と国際法に関する研究 [キーワード] 宇宙条約、放送衛星、リモートセンシング、スペースプレイン  
[テーマ] 国際社会における共通利益概念に関する研究 [キーワード] 共通利

益、国際公益、国際共同体

[教育への還元] 科学技術の発達と法規制の「追いかっこ」は、法学教育（特に国際法の分野）のテーマとして、大変興味深いものであると考え、研究テーマに関連する問題を、ゼミナール等で積極的に取り上げている。

[活動と環境] 研究環境に対する不満を挙げたら、枚挙に暇がない。所与の研究環境で、最大限の努力をするのみと考えている。

## 藤原正則

F U J I W A R A Masanori

助教授

[研究領域] [領域] 民法学 [キーワード] 不当利得、介護と相続、

[領域] 社会保障法 [キーワード] 介護と相続

[代表的業績] 民法学「わが国における『転用物訴権』のあり方」『北海学園大学法学研究』第24巻、1号・2号

社会保障法「ドイツにおける公的な老人介護システムと私法上の制度」、「介護と相続法理研究会」（平4）

[研究テーマ] [テーマ] 財貨の追及 [キーワード] 対第三者関係

[テーマ] 相続財産の活用 [キーワード] 相続契約、先取りした相続

[教育への還元] 基本的には研究の還元は、自分の力量全般の向上によるものとする。更に教育への還元は、かつての自分でも研究する学生ではなく、消費者としての学生への還元である。その意味からはトピカルな話題が、自分の研究と関連すれば、これを講義で示すしかない。但し、大学での講義内容は教科書化されておらず、研究の裏づけがなければ、教育が充分できるとは考えられない。

[今後の方向性] （基本的には企業秘密）従来の主な研究テーマ、不当利得、財貨の追及の構想を具体化し、総合的とすること。

[活動と環境] 研究費→妥当な額とはほど遠い。但し、研究機関の社会的重要性は同一ではなく、すべての大学に同等の研究条件を与えるのは不可能であろう。しかし、それにしても少ないのでは？施設→本学における法律系は歴史が浅く図書は圧倒的に不足。業績発表機会→自分の属する分野からみて、『商学討究』の執筆枚数の増加が必要。学会交流→「法学部」ではないのが、我々にとっての最大の問題。ドイツとの関係ではHandels-Hochschule（商科大学）は高等教育機関とは評価されない専門学校と思われる等の問題あり。

## 町村 泰貴

MACHIMURA Yasutaka

助教授

[研究領域] [領域] ①民事訴訟法 [キーワード] 法学、民事法、訴訟法

[領域] ②倒産処理法 [キーワード] 法学、民事法、破産法、和議法

[領域] ③フランス法 [キーワード] 法学、比較法、フランス法学

[代表的業績] ①(共著)『新判例コンメンタール民事訴訟法1』、「提訴前の証拠保全の正当な利益」、『商学討究』43-3・4、②和議条件と履行の確保、NBL③「フランスにおけるLe droit à la preuve の概念」、『北大法学論集』38-1、「1985年のフランス倒産法に関する法文の翻訳」、『北大法学論集』38-3・4

[研究テーマ] [テーマ] 民事手続における審理の効率化の諸方策 [キーワード] 法学、民事法、訴訟法、破産法

[テーマ] 消費者倒産の法的処理手続 [キーワード] 法学、民事法、破産法、和議法、消費者法

[教育への還元] 一般的には、研究領域と教授科目とが一致しているので、研究の教育へのフィードバックは当然になされる。加えてゼミナールにおける個別指導を通じて、研究活動が直接指導内容に反映されることもあろう。設定すべき課題としては、個別的な研究テーマを直接取扱う講義科目の設定が必要と考えている。

[今後の方向性] 当面はフランス法の分析検討、日本法との比較研究に重心を置く。

[活動と環境] 学内の研究環境は一般的に良好と思われる。今後、(1)データベース等の電子データ(フロッピー・ディスクやCD-ROMなどの媒体で提供されるデータベース)を集中管理すること、(2)法学分野でも、判例文献データベースの利用を促進すること、(3)法学分野における学内共同研究会の創設、(4)業績発表機会、特に法学論文集の発行や、本学教官による教科書、講義録などの充実、(5)学会交流の重点的支援、以上の諸点について考える必要がある。

## 渡辺 達徳

WATANABE Tatsunori

助教授

[研究領域] [領域] 契約債務の構造及び契約責任の特質の解明 [キーワード] 給付障害、国際動産売買法、帰責原理、瑕疵担保責任、損害賠償

[代表的業績] ①「給付障害の基本構造に関する一考察（一）（二・完）～契約上の「給付約束」と「給付結果」、比較法的に見たその法的保障の体系～」『法学新報』（中央大学法学会）96巻5号167頁、6号177頁（いずれも1990年）②「『ウィーン売買条約』（C I S G）における契約違反の構造」『商学討究』41巻4号109頁（1991年）

[研究テーマ] [テーマ] 契約保障の基本構造論 [キーワード] ウィーン売買条約、履行請求（特定履行）、契約解除、損害賠償、帰責原理

[教育への還元] 社会科学の講義やゼミナールの目標とは、人間社会における問題の発見・分析・政策決定、そして、それらを表現するための諸能力を養うことであるから、「研究の教育への還元」とは、単なる知識の伝授のみならず、そこに至るための社会科学の考え方、ひいては教員が研究に取り組む日頃の姿勢の反映を意味する。したがって、自らの研究を怠らない教員の努力こそが、大学教育の質を担保するのだと思う（なお、こうした意味での大学教育の場は、学部から大学院修士課程（社会人のための大学院をも含む）へと移行していくことになる）。

[今後の方向性] 現在のテーマは、今後も追求の価値あるものと考えている。今後は、従来の総論的枠組み提示を踏まえて、個別問題における解釈論的寄与が課題となる。

[活動と環境] 学内の研究環境は、遺憾ながら十全とはいえない。特に、次の二点が顕著である。(1)予算上の制約が、「社会科学」の研究手法を踏まえた文献・資料の収集を許さないほどに及んでいる。(2)入試、自己評価、各種委員会などに伴う仕事の量が著しく増加し、研究時間を圧迫している。なお、学外の研究環境のうち、学会・研究会などにおける業績発表機会は、確保されていると思う。ただし、開催が東京及び関西地区に集中することから、旅費の不足が深刻である。

## 社会情報学科

加藤修一

KATHO Shuichi

教授

[研究領域] [領域] 地球環境問題に関する政策的研究（環境財・環境サービスの経済的評価・計測を含む） [キーワード] 非市場財、環境財、グリーンGNP、環境監査、計画・政策

[代表的業績] “Environmental Improvement Project and Evaluation of Potential Benefits Accruing from them” *The Economic Review*, Vol. 42, No. 2-3, 1991.  
「環境と評価－環境改善プロジェクトのマネジメントとプランニング－」、*TRI*、1992年など。

[研究テーマ] [テーマ] 「環境財の社会・経済的評価に関する計画学的研究」 [キーワード] 消費者余剰、潜在的便益、グリーンGNP、政策

[教育への還元] 研究の教育への還元については、基本的には非常に大切なことである。ただし、現在学会で論議になっている研究課題や教官の研究内容をそのまま講義に展開するには、学生側の基本的な知識が十分でないため必ずしも還元しえる状態とはいいがたく困難なところがある。しかし私が進めている研究領域のある部分については、学生にとっても関心ごとであり、工夫によっては還元でき得る。多少難解であるが実際に環境財（景観、緑など）の改善効果の計測・評価方法については講義で取り上げている。

[今後の方向性] 環境評価における体系的な計測・評価の方法の整備、環境志向型産業連関表などの応用による地域環境のバランスある発展にかかる戦略の研究。

[活動と環境] かならずしも好ましい研究環境ではない。漸次、改良していくことである。研究費について言うならば、今後研究費割当が拡大する保証はないので個人的には（学科内のグループを含めて）外部の研究費獲得に向けた活動に重点を置き研究環境を整えたい。

杉本英二

SUGIMOTO Eiji

教授

[研究領域] [領域] ①情報検索システム [キーワード] 情報検索、データベースシステム、文献検索、組み合わせ数学、グラフ理論

〔領域〕②エキスパートシステム〔キーワード〕エキスパートシステム、知識表現、推論、自然言語処理

〔領域〕③経営情報システム〔キーワード〕経営情報システム、オープンシステム、ネットワーク、DBMS、EUC

[代表的業績] ① 1. Cyclic Claw Designs of Order 3, 早稲田大学大学院理工学研究科修士論文1978. 2. A Short Notes on New Indexing Polynomials on Finite Fields, Information and Control, Vol. 41, No. 2, 1979.

② 1. 論理構造認識、*bit*, Vol 15, No. 8, 1983.

2. 法律エキスパートシステムのための知識表現に関する考察、『商学討究』Vol. 40, no. 4号、1990

3. 格構造を使った日本語文の意味解析システムの開発、『商学討究』Vol. 42, No. 2・3, 1991.

③ 1. 経営情報システムのオープン化と小樽地域での状況、『商学討究』Vol. 45, No. 4, 1995.

[教育への還元] 理工系の学部では研究の場に学生を引き込むことが日常的であるが、本学ではそれが極めて少ないため、教官が研究者であることすら知らないで卒業している学生が多いように感じている。将来の大学の良き理解者となるはずの学生たちに、大学の本質的な機能を知らしめずに卒業させてしまうことは、広報活動としても残念なことと考えている。こうした認識から、現在の日本の研究状況や課題を理解させるよう努力している。さらに卒業論文作成の過程で、教官の研究を理解させ、それらの一部を学生と共に共同研究ができることが望ましいと考え、努力している。もちろん、研究結果の教育への反映もある。コンピュータ科学の変化は極めて激しく、十分考えられた教育内容でも5年間ともたなくなってきた。教育のために最新技術の学習が教官にも欠かせない時代である。応用分野では、最新技術の適用研究も重要な研究であると認識している。最近、本学にも留学生が多くなってきているが、そこでの問題は図書の充実である。研究論文の多くは英語で書かれているのだが、教科書レベルの図書が極めて少ない。特に変化が激しいコンピュータ関連の分野ではかなりの予算が必要であるが、大学院生には数万円の図書予算しかなくて、大学院の教育研究に大きな障害となっていることも理解がなされるべきだろう。

[今後の方向性] 現在、経営環境でのコンピュータ利用形態が、オープン化の波で急激に変化している。その結果、社会情報学科にはプログラミング中心の技術者よりも、Windows環境、ネットワーク環境でのエンドユーザーコンピューティング(EUC)ができる人間が大量に求められる状況にある。大学では、これら



の人材を育てるための教育研究が現在の社会的要請であると考え。

[活動と環境] 現在の社会情報科学には、経営あるいはコンピュータ利用のリストラクチャが急激かつ大規模に進められている社会の変化に対応した研究が求められている。そのためには、研究環境のリストラを行い、旧式化した設備改善に努めなければならない状況にある。最近文部省は情報化のための予算を積極的に組んで基盤整備を行い、大学全体としての研究環境はかなり整備されつつあると考えて良いが、各教官の個人的研究環境を考えると、旧式化したパソコンやソフトを抱え、研究に直結した最新のハードとソフトの進化に追いついてはいない。特に1、2年で陳腐化するこれらの機材等の更新には、現在の個人研究費ではとても足りないのが現状である。

## 戸 島 熙

TOSHIMA Hiroshi

教 授

[研究領域]〔領域〕計算機科学〔キーワード〕記号処理、Lisp

〔領域〕数理経済学〔キーワード〕生産関数、代替の弾力性

[代表的業績]「Reduce 活用のために」*archive*, No. 12, CQ出版社、平成2年

「数理経済学への応用」*bit* 別冊、共立出版、昭和61年

[研究テーマ]〔テーマ〕数式処理の数理経済学、数理統計学への応用〔キーワード〕数式処理、リスト処理

[教育への還元] 研究がなければ教育がないので、最新の研究結果を教育に反映させるよう毎年講義の内容をかえている。

[今後の方向性] 「計算機物理学」があるように、境界領域として「計算機経済学」を構想している。

[活動と環境] 必ずしも好ましくない。好ましくなるためには講座制の充実、研究費倍増、定員増加による負担減などが必要と考える。

## 中 村 隆 志

NAKAMURA Takashi

教 授

[研究領域]〔領域〕確率モデルに関する研究〔キーワード〕確率過程、マルコフ連鎖、待ち行列

- [代表的業績] (共著) 「マルコフ連鎖によるトランスファ型自動生産システムの解析 —— 1 段階 2 機械モデル ——」、『電子通信学会論文誌 (A)』Vol. J68—A, No. 2
- [研究テーマ] [テーマ] 遺伝的アルゴリズムのマルコフ解析 [キーワード] 遺伝的アルゴリズム、マルコフ連鎖
- [教育への還元] 一般に大学での講義は、その分野で通説となっていることを教育するのが普通である。したがって、先端的な研究内容をすぐさま講義に反映させることは難しい。しかし、ゼミナールではトピックとして研究内容の一部を紹介することもある。
- [今後の方向性] 学会において正当な評価を受けるように現在の研究を完成させること。さらには、確率モデルの解析に関する新たな手法等を確立すること。
- [活動と環境] 研究成果の公表や、研究会に参加が可能な学会にいくつか所属しており、この点に関しては特に不自由はない。学内の研究旅費や研究費は必ずしも十分とはいえない。

## 沼 田 久

NUMATA Hisasi

教授

- [研究領域] [領域] 情報と最適行動 [キーワード] OR、最適解、戦略、情報コスト、情報社会
- [代表的業績] 「スポーツのオペレーションズ・リサーチ (そのII)」『商学討究』、第32巻第2号、昭和56年11月
- [研究テーマ] [テーマ] コミュニケーションと社会の変容 [キーワード] 情報技術、通信、放送、交通、時間距離、情報教育
- [教育への還元] 直接的な還元の可能な分野もあろうが、数学的側面の強い授業ではかなり困難である。
- [今後の方向性] 情報流通と交通の両方を含めた意味でのコミュニケーションの技術とインフラストラクチャー整備の進行、ソフト面の拡充がもたらす社会変容の動向の考察
- [活動と環境] ①研究旅費が不足である。一般研究費からの流用がある程度可能にならないか。  
②通信関係の設備利用・費用支払の自由度を高める必要あり

## 若林 信夫

WAKABAYASHI Nobuo

教授

- [研究領域] [領域] 計画科学 (管理科学) [キーワード] 数理計画法、最適施設配置、数理経済学
- [領域] 情報科学 [キーワード] コンピュータネットワーク、アルゴリズム、データベース
- [代表的業績] 「生産関数」『経済学大辞典Ⅰ』東洋経済新報社、昭和55年 (所収)、「インターネットワークを利用したOR計算環境の改善 (Ⅰ) (Ⅱ)」『商学討究』Vol 44. 1・2、4、
- [研究テーマ] [テーマ] 計画科学 [キーワード] 数理計画法、OR全般
- [テーマ] 情報科学 [キーワード] コンピュータネットワーク、アルゴリズム、データベース
- [教育への還元] 大学院教育は、研究の一環と位置づける。学部教育は、研究の一端と位置づける。成熟した研究領域は直ちに教育に還元できるが、未熟な不分明な領域は限られた講義時間内では取扱いが困難である。にも拘わらず、その事実を伝えたいと努力する。
- [今後の方向性] コンピュータ技術の進展は秒進分速といわれるが、いつまでも古い機器と技能に留らないで新しい技術と知識を獲得・蓄積させて行きたい。
- [活動と環境] 研究費～高額のハードウェアやソフトが買えない。共通のものは情報処理センターで用意できる体制の充実が望ましい。
- 研究施設～研究室がせまい。共同研究室を作る。
- 学会交流～海外への研究調査費と旅費が少ない。

## 奥田 和重

OKUDA Kazushige

助教授

- [研究領域] [領域] 分権的生産システムに関する研究 [キーワード] 分権化、生産システム、ゲーム理論
- [領域] 資源配分型2階層分権的システムの解析 [キーワード] 大規模システム、資源配分問題、階層理論
- [代表的業績] 「資源配分型2階層分権的システムの解析」『日本経営工学会誌』、32巻、5号、昭和56年、「分権的システムにおける資源配分型統合法について」『シス

テムと制御』、29巻、9号、昭和60年

[研究テーマ] (テーマ) 大規模システムの最適化理論と均衡化理論 [キーワード] 大規模システム、最適化理論、ゲーム理論

(テーマ) 生産計画に基づいた工具在庫管理の最適化 [キーワード] 生産計画、工具寿命、最適切削速度、在庫管理

[教育への還元] 研究テーマは、論文のプライオリティを競うものであるため教育に還元できるほど体系的に整備されているものではない。しかしながら、研究によって得た従来のものとは異なる思考法は教育への還元が可能であり、一般化して紹介している。

[今後の方向性] まだ解明すべき問題は山積しており、これらの問題を順次解決して、一つの学問として整理・体系化するように考えている。

[活動と環境] 研究費：予算の配分が十分でないために、研究活動予算に関する制約が非常にきつく研究活動を阻害する要因となっている。

研究施設：本学の研究室は現在の研究活動を十分サポートできる施設ではない。講義室の新築・改善は進んでいるようであるが、研究室も積極的に改善すべきである。

業績発表：所属している学会はいずれも論文投稿料が高額であるために、予算の制約上論文の投稿には慎重にならざるを得ず、結果的には業績発表の機会を逸しているといえる。

学会：現在6学会に所属しているが、いずれも北海道で大会を開くことが稀であるために、十分な交流ができない。本学の地理的位置は如何ともしがたく、旅費の改善が望まれる。

## 加 地 太 一

K A J I Taichi

助教授

[研究領域] (領域) グラフ分割問題とアルゴリズム [キーワード] グラフ理論、分枝限定法、計算量、アルゴリズム

(領域) メタ戦略による組合せ最適化 [キーワード] タブー探索法、アニーリング法、組合せ最適化

[代表的業績] 「最適系列分割問題に対する効率的分枝限定法の構築と諸特性解析」『情報処理学会論文誌』Vol. 35、No. 3、1994.

[研究テーマ] (テーマ) 無閉路有向グラフの最適系列グラフ分割問題 [キーワード] グラフ

理論、組合せ最適化、動的計画法、タブー探索法

[教育への還元] アルゴリズムおよび数理的思考法を学ぶことによって、広く問題解決の思考およびその方法論への応用展開が計られるものと考ええる。また、具体的な事例を通して、抽象的な概念を理解しやすいよう努めている。

[今後の方向性] 現在の研究をさらに深め、進展させたい。および、社会科学への応用を計りたい。

[活動と環境] 大学としての教育および研究活動を維持するためには、十分なゆとり（時間）と豊かさ（研究費等）が必要であると思う。ただし、個人的にはゆとりが一番に重要な環境であると考ええる。できうれば両者が整った環境をもつ大学となつてほしい。

## 酒 井 弘 一

SAKAI Koichi

助教授

[研究領域] 経営戦略、組織戦略と情報利用に関する研究〔キーワード〕 組織活性化、戦略情報システム、アライメント

[代表的業績] 「企業経営と情報資源の再配置－情報システム組織を変革するストラテジックアライメント－」、『日経情報ストラテジー』1933年2月

[研究テーマ] [テーマ] 情報システム有効活用条件、情報利用環境の諸課題〔キーワード〕 情報システム投資効果、地域医療と情報化、情報化戦略

[教育への還元] 経営組織における情報システムの活用はその組織の直面する経営課題の解決と切り離すことはできない。しかし課題を自律的に措定し、解決法を追及する『能力』は『教育』が必要なポイントでありながら、社会全体として充分対応できているとはいえない。むしろ国際的に見劣りがするといっても過言ではない。情報システムに関する研究成果を社会的に有意な文脈に置くことは、この種の能力抜きには語れないため、研究対象である情報システムあるいは経営戦略構築の現実のケースをとりあげ、学生に考察の場を与え、課題解決プロセスを追体験させることにしている。そのことを通じて情報利用環境構築上の問題点も確認していきたい。

[今後の方向性] 情報利用の高度化は必然的な流れであるが、利用環境、制度などにおいて従来とは違った課題が惹起されることが予想される。それらに対し基礎的な観点を提供する枠組みについて検討を深めたい。（組織と仮想情報環境における認知の諸問題など）

[活動と環境] 戦略や情報体系の構築は「リアル」な世界との連帯なしには「リアリティ」をもちえない。「リアリティ」は閉ざされた世界では「仮想的」なものに転化していく。「リアル」な世界と整合をとって連帯（アライメント）できる研究環境の構築が課題であろうと考えている。

### 清水川 緋紗子

SIMIZUGAWA Hisako

助教授

[研究領域] [領域] 統計学

[代表的業績] 北海道家計調査の制度と費用について

### 近 勝 彦

CHIKA Katuhiko

助教授

[研究領域] [領域] 社会情報論 [キーワード] 情報、記号論、構造論、コンピュータ、ネットワーク

[領域] 情報組織論 [キーワード] 情報、組織コーディネーション、インセンティブ、効率性、経営戦略

[代表的業績] 『情報社会とコンピュータリテラシー（共著）』西日本法規出版、地域社会と老人福祉問題、大原社会問題研究所

[研究テーマ] [テーマ] 情報産業（コンテンツビジネス）の発展とその経営問題 [キーワード] ソフトウェア産業、コンテンツ、先端科学技術、SIS、OA

[テーマ] マルチメディア技術の社会への影響 [キーワード] Multi-Media、画像情報、感情情報、アジアの経済情報

[教育への還元] 情報産業は、大きく別けて、媒体産業、機器産業、コンテンツ産業に分かれますが、どれも日本の戦略的産業分野です。その中で、とくにソフトウェアを含むコンテンツは米国と比べ大きく遅れています。そこで、産業構造が急速に進展する中、それに対応しそれを支援する方法を考えることは極めて重要です。しかし、夢（ビジョン）ばかり語るのではなくそれを既存の社会学、経済学、経営学を踏まえて実証的に分析しております。

[今後の方向性] 情報社会論ないしは経営情報論は、すぐれて学際的内容をもっています。そこで、多くの諸科学の成果を学習し、取り込むと同時に、それ自身の固有化（独

自化)も高めていきたいと考えます。できればソフトウェアの開発手法の法則化(命題化)を行ないたい。

[活動と環境] まず情報学と社会科学の融合には両方の知識が必要ですが、学内には同じ接点(関心)をおもちの方があまりいらっしゃらない。そこで、3~4の研究会を作り、他大学の先生と研究を重ねている。研究費に関しては、学会出張等の旅費が圧倒的に不足していると思われる。

## 行 方 常 幸

NAMEKATA Tsuneyuki

### 助教授

[研究領域] [領域] 有限資源の逐次配分問題に関する研究 [キーワード] 動的計画法、逐次配分問題、逐次決定過程

[領域] ゲーム理論における人間モデルに関する研究-繋がり の根拠- [キーワード] ゲーム理論、協調への動機、関係と繋がり

[代表的業績] "Some Remarks on Sequential Allocation Problem over Unknown Number of Periods" *Journal of the Operations Research Society of Japan* Vol. 24, 1981. 「繋がり の根拠-ゲーム理論の基礎に向けて」『商学討究』1993年3月。

[研究テーマ] [テーマ] ゲーム理論におけるプレイヤー間の繋がり の現われ方及びよりふさわしい表現方法に関する研究 [キーワード] ゲーム理論、協調への動機、Nash均衡、安定性

[教育への還元] ゲーム理論が学生に余り知られていない現状を考え、簡単な例題を中心としたゲーム理論の導入を試みている。その際、どの程度の抽象性、数学的な表現を入れるか、また、自分の研究内容をいかに簡単に紹介すれば効果的かを試行錯誤しているところである。

[今後の方向性] ゲーム理論のモデルが利用される社会的状況を限定し、その状況におけるプレイヤー間の繋がり の現われ方を明確にし、不十分と思われる部分はその理由を考察し、モデル化可能な表現方法にまで持っていくこと。

[活動と環境] 研究費の増加はほとんどないにもかかわらず、われわれの研究の効率化のためのパソコンのハード、ソフトを維持していく経費は着実に増えていく。そのため、本来図書館にあったほうが他の研究者のためにもなる書籍などを自費で購入することになり、長期的に見て大学の研究環境が悪化するのではないかと危惧している。

南 弘 征

MINAMI Hiroyuki

助教授

[研究領域] [領域] コンピュータネットワーク [キーワード] Internet, TCP/IP

[領域] 計算機統計学 [キーワード] データ解析システム

[領域] 視覚的ソフトウェア環境 [キーワード] Visual Programming

[代表的業績] (注：以下はいずれも共著、共同発表)

(1) コンピュータネットワーク

「失敗しないUNIXネットワークの構築と実際」情報処理北海道シンポジウム '92 Tutorial、1992.

「仮想 Newsgroup の導入による NetNews の記事探索及び分類について」, 情報処理学会第49回全国大会, 1-319, 1994.

(2) 計算機統計学

A Knowledge Supporting System for Data Analysis, *Journal of the Japanese Society of Computational Statistics*, Vol.6, No.1, pp.85-97, 1993.

仮説推論機構を用いた多変量データ解析支援システム、『応用統計学』Vol.23, No.2, pp.63-79, 1994.

(3) 視覚的ソフトウェア環境

視覚的ソフトウェア環境における知的処理、『北海道大学工学部研究報告』第149号、pp.125-133, 1992.

[研究テーマ] (研究領域に同じ)

[教育への還元] 現在担当している諸科目において、特にInternetに関する基礎事項やトピックスの説明を行っている。これは比較的新しいテーマであり、今日の社会で不可欠な内容と考えているので、可能な限り最新かつ正確な内容を提供し、理解してもらえよう、努めている。

[今後の方向性] 基本的関心は、計算機利用による人的負担の軽減にあるため、現在の研究領域においてその根幹が失われない限り、継続したい。

[活動と環境] ・研究費、研究施設：本学が社会科学系に属することは理解しているものの、計算機科学に関する研究を行なうには、満足のいくものではない。共有設備である情報処理センターの機材はその性格上、高負荷となる実験研究に適さず、やはり個人研究費による手当が必要となる。理工系の学会では、論文掲載に際しても研究費を充当しなければならないことが多く、慢性的に不足と言っても過言ではない。



- ・業績発表機会、学会交流：北海道という地理的な制約に伴う旅費の不足が問題と考えられる。
- ・その他：新陳代謝の激しい研究領域に関心を持っており、極端な例では半年前の書籍が使えないこともあるため、迅速な図書の購入を望みたい。

## 持 田 泰 昭

MOCHIDA Yasuaki

助教授

- [研究領域] [領域] 情報システム [キーワード] オペレーティングシステム、OS、インターフェース、標準化、リアルタイム、コンピュータネットワーク
- [代表的業績] 電子情報通信学会編『電子情報通信ハンドブック』（共著）オーム社、1988年  
“Portability Experiment for CTRON Communication Control (Transport Layer and Session Layer)”, in *Proceedings of the 9th TRON Project International Symposium*, IEEE CS Press, 1992
- [研究テーマ] [テーマ] システム監査の手法 [キーワード] 安全性、信頼性、効率性、技法  
[テーマ] 情報システムのモデル化 [キーワード] 分散処理モデル、インターフェースモデル、信頼性モデル、性能モデル
- [教育への還元] 客観的な立場から情報システムの安全性、信頼性、効率性を向上させるためにはいかにすべきかについて、研究成果を紹介していく。
- [今後の方向性] 学会、研究会等との協調
- [活動と研究] 現状ではタイムリに図書を入手できず、図書購入システムの改善の必要性を痛感している。

## 山 本 清

YAMAMOTO Kiyoshi

助教授

- [研究領域] [領域] ①政府部門の業績評価と人事管理（政策科学） [キーワード] 業績評価、人事管理、政府  
②政府部門の会計と監査 [キーワード] 政府、会計、監査、アカウントビリティ
- [代表的業績] ①「公的組織における業績給制度の基本問題」、『地方自治研究』第8巻、第1号、1993. ②“Performance Auditing in the Central Government of

Japan” , *Financial Accountabilty and Management*, Vol. 5, 1989.

- [研究テーマ] これまでの研究領域と同じ
- [教育への還元] 学生に研究の第一線の姿を見せるのは大学人が教育のみを職務としていないことから必要と思われる。正確性を失わない範囲で新しいトピックス・研究成果を関連する講義で紹介している。
- [今後の方向性] 従来の研究を進展させるとともに、情報通信システムのインパクトを視野に入れて発展させたい。
- [活動と環境] ・研究環境はまずまずでしょう。  
・業績発表の場として学会は時間等に制約があり、今後学位取得者が増加すると期待されることから、出版助成を学位論文に対して行なうべきと考えます（出版事情が厳しい状況下では）。  
・国際交流の助成は、自らのファンド申請で対応可能と思われます。

## 穴 沢 務

ANAZAWA Tsutomu

助手

- [研究領域] {領域} 最大エントロピー原理による確率分布の推定とその応用〔キーワード〕 最大エントロピー原理、密度推定、多変量解析、ノンパラメトリック推定
- [代表的業績] ”Quantile Estimation Based on a Nonparametric Density Estimator Derived from Maximum Entropy Criterion”(coauthored), *STATISTICS IN INDUSTRY, SCIENCE AND TECHNOLOGY*, Proceedings of International Conference in Tokyo, July 1994.
- [研究テーマ] 〔テーマ〕 統計学における精度と計算量の問題、畳み込み分布の母数の推定  
〔キーワード〕 計算量、畳み込み、パラメトリック推定
- [教育への還元] 基本的には、自分の研究する姿を学生に見せることそのものが大学教育だと考える。私の研究内容は、とかく無味乾燥となりがちな計算機の分野と、応用が重視される統計学の境界領域にあると考えられる。しかし、助手という身分なので、その内容を教育に活かす機会は少ない。
- [今後の方向性] 未知であると同時に、明らかにすべきでないことである。
- [活動と環境] ・出張旅費が極端に少ない。せめて研究費と振替可能にして欲しい。  
・学会費が研究費で支払えないことも、研究に大きな支障をきたしている。

## 平 沢 尚 毅

HIRASAWA Naotake

### 助 手

[研究領域] [領域] 人間工学 [キーワード] 身体計測学, 生理学

[領域] 情報科学 [キーワード] ヒューマン・インタフェース, 認知科学

[代表的業績] "Developing an Ergonomics Guideline database for Product Design", Proceedings of The 12th Triennial Congress of the International Ergonomics Association.

[研究テーマ] [テーマ] 人間工学デザイン・ガイドラインデータベース [キーワード] 人間工学, ガイドライン, データベース, プロダクトデザイン

## 今 尚 之

KON Naoyuki

### 助 手

[研究領域] [領域] ①社会計画 [キーワード] 計測、評価、社会システム、(都市・地域計画、交通計画) 社会計画史

[領域] ②情報科学 [キーワード] 社会計画情報、データベース、統計処理、数量化

[代表的業績] ①社会計画：社会基盤システム発展における土木史的な法則性に関する研究 (北海道大学学位請求論文、1993年) ②情報科学：「土木用語データベースの構築と運用」『土木情報シンポジウム論文集』1994年

[研究テーマ] [テーマ] ①社会計画へのファジィAHPなどのOR手法の適用および社会計画論 [キーワード] 選択モデル、評価モデル、ファジィAHP、土木史、社会計画史、生活環境、環境財

[テーマ] ②社会計画のための情報処理手法およびデータベースの構築 [キーワード] データベース、意識調査、キーワード抽出、数量化、統計処理

[教育への還元] 現在、自分の職責は助手であり、講義の補助、学科事務を行っているのみであるから、自らの研究成果を教育へ直接的に還元し得ない立場にある。しかしながら、講義等をお持ちになられている先生方との共同研究を行うことによって、研究成果を間接的にでも教育に還元できるのではないかと思います。

[今後の方向性] 今後ますます増大する、価値観の多様化や地球規模の生活環境問題は、社会計画に様々な制約を加えている。このため合意形成や意思決定問題は、より一層複雑化し、従来にもまして合理的な解決が望まれる。そこで、現在取り組んで

いる1)計測、評価、意思決定手法の構築。2)情報提供を目的としたデータベースや情報処理手法の構築。3)計画情報としての社会計画史などを引き続き研究テーマとしたい。そして、学会で受けている現在の評価をさらに高めると同時に、それらの成果を実社会に還元できる方向性を意識しながら研究を遂行したい。

[活動と環境] 現在の研究対象である社会計画領域の研究は、一人で思索を深めることによって進む研究ではない。様々な人々と議論し、交流することが研究を遂行する上で不可欠である。そのために必要なネットワーク環境や情報通信環境がハード、ソフトいずれの面においても充実されることが望まれる。ハードウェアについては、比較的恵まれていると認識する。しかし、ソフトウェア的には、さらに充実することが望まれる。

## 一 般 教 育 等

荻野 富士夫

OGINO Fujio

教授

[研究領域] [領域] 初期社会主義思想 [キーワード] 平民社、『近代思想』、“冬の時代”  
[領域] 特高警察 [キーワード] 内務省、治安維持法、天皇制

[代表的業績] 『初期社会主義思想論』不二出版、1993年  
『特高警察体制史』増補版 せきた書房、1988年

[研究テーマ] 戦前日本の治安体制 [キーワード] 思想司法、治安維持法、外務省警察、初期  
社会主義思想の後期 [キーワード] 河上肇、日本社会主義同盟、社会的デモク  
ラシー

[教育への還元] 一般教育担当なので、全面的に開陳できないものの、前・後期一回ずつ程度は  
これまで明らかにしてきたことをかみくだいて講義している。学生の感想や意  
見により、啓発されたり、見落としていた論点に気づかされるなど、実際に何  
度か経験している。「研究の教育への還元」にとどまらず、「教育の研究への  
還元」もありえるし、またありえなければならないと考えている。

[今後の方向性] 思想司法論、外務省警察論などを個別に明らかにすることと並行して、「戦前  
日本の治安体制」の構造・理念を視野に入れて考えることが緊要だと思う。そ  
の抑圧体制下での社会変革のあり方にも論究したい。

[活動と環境] ・科研費などの採択の機会が増えるとありがたい。  
・専門領域を越えた研究会がもう少し活発となり、未知のことがらや方法論な  
どで刺激を相互に受けられるような学内環境が育ってほしいと思う。

片岡 正光

KATAOKA Masamitsu

教授

[研究領域] [領域] ①電気分析化学 [キーワード] 電気化学、分析化学、イオン選択性電  
極、センサー、ポテンシオメトリー、ボルタンメトリー

[領域] ②接触分析法 [キーワード] 反応速度、触媒、超微量分析、高感度定  
量、フローインジェクション法

[代表的業績] ① “Potentiometric Adenosine Triphosphate Polyanion Sensor Using a  
Lipophilic Macrocyclic Polyamine Liquid Membrane”, *Anal. Chem.*, 60巻,

1989. "Voltammetric Anion Responsive Sensors Based on Modulation of Ion Permeability through Langmuir-Blodgett Films Containing Synthetic Anion Receptors", *Anal. Chem.*, 62巻, 2392 (1988)

② "Catalymetric Trace Determination of Molybdenum(VI) Based on a Landolt Type Peroxoborate-Iodide Reaction Using an Ion-Selective Electrode", *Fresenius Z. Anal. Chem.*, 321巻, 146 (1985)

[研究テーマ] 新しいイオンセンサーの開発とその評価 [キーワード] イオン選択性電極、ポテンシオメトリー、環境分析、選択性

[教育への還元] 文科系大学での化学研究の教育への還元は大変難しいが、地域環境（水、大気、土壌など）汚染の化学的分析手法を開発し、その評価・応用の結果を講義に取り入れることによって、学生達が化学をもっと身近なものとして興味を持って学ぶようになることを期待する。小人数クラスの化学の講義で化学実験を取り入れ、研究によって開発されたセンサーを用いた環境水中の化学物質の検出・定量を計画中である。

[今後の方向性] 1. 新しいコンセプトを有するセンサーの開発とその評価  
2. 地域環境水（小樽運河水、港湾水、河川水、上下水道水）、大気（雨水）の分析を行いたい。ただしこの研究の遂行には人手（助手）が必要である。

[活動と環境] ○研究施設 文科系の大学で大型の研究機器などはとても望めないが、実験室などの研究環境にはおおむね満足している。

○研究費 研究の性格上、自然科学系の研究は文科系の研究より多くの予算が必要であることを配慮した予算配分を望む。また年2回の学会年会（春、秋）に参加・研究発表できる程度の旅費を確保したい。

○業績発表の機会

1. 年に1回、全教官が1年間の研究成果を発表する機会を作ることにより、教官の研究の活性化や学内研究交流の活性化が図られると考える。

2. 学生がゼミでの研究の成果を多数の教官と学生の前で発表する機会がほとんどないように思われる。全学または学科単位でゼミ生の卒論発表会を是非とも行うべきである。

兼 岩 龍 二

KANEIWA Ryuji

教授

[研究領域] [領域] 解析的数論 [キーワード] 分割、数論的関数

[代表的業績] “An Asymptotic Formula for Cayley’s Double Partition  $p(2;n)$ ,” *Tokyo Journal of Mathematics*, Vol. 2, No. 1, 1979.

“On the multiplicative partition function.” *Tsukuba Journal of Mathematics*, Vol. 7, No. 2, 1983.

[研究テーマ] 弱い集合論の正当性の追求〔キーワード〕 集合論、高階論理  
種々の数論的関数の挙動〔キーワード〕 数論的関数

[教育への還元] 研究によって身についた見識が教育に生かされることは考えられるが、客観的な評価は出来ない。研究していることが直接教育に結び付くようにするには大学院で数学を講義したり、ゼミをすること位しか考えられない。

[今後の方向性] 自然体で興味を持ったことを追求する以外ない。

[活動と環境] 研究費、研究施設は当然不足している。それも本学に数学科がある訳ではないのである程度やむを得ないのではないかと甘んじている。  
発表機会についての不自由はないと思ってきたが、最近自分が投稿してみて気付いたのは、「人文研究」の頁制限はきつすぎるのではないかとということ。  
もっと紙面を増やすことはできないものか。

## 倉 田 稔

KURATA Minoru

教授

[研究領域]〔領域〕 ヒルファディング、金融資本論、ハプスブルク史、小林多喜二、ベール

[代表的業績] 『若きヒルファディング』『金融資本論の成立』『ハプスブルク歴史物語』『ベールと婦人論』著書のみですが。

[研究テーマ] 後期ヒルファディング、小林多喜二、現代オーストリア史

[教育への還元] 研究のための研究と教育のための研究とがある。前者は教育のために部分的に直接還元される。後者は、部分的どころか、還元されるどころか、教育そのものである。

[今後の方向性] 帝国主義論の成立、後期ヒルファディング、小林多喜二伝、ナチス時代のオーストリア史を当面考える。

[活動と環境] 旅費がたりない。少なくとも学会報告する場合は特別に手当すべき。業績発表機会は小生にとっては今は少い。個人的に本を置くスペースが足りない。

## 田 野 有 一

TANO Yuichi

教 授

[研究領域] [領域] 体育方法 (運動方法論…ルール・審判) [キーワード] Trampoline, FIT, JTA, Fliffis

[領域] 体育方法総論 (運動特性論…体操競技) [キーワード] 技術革新、新技開発、評価判定競技、Monotony現象

[代表的業績] ・日本におけるトランポリン競技規則の変遷  
・体操競技の特性と問題

[研究テーマ] 日本におけるトランポリン競技規則の変遷 (続編)

[キーワード] Triffis, 決勝演技, Voluntary Routine, 質的評価

[教育への還元] 業績のための研究 (あるいは業績蓄積のための) には賛成できない。やはり研究成果は教育の現場に還元されることが重要と考える。一方、体育科教育に活用されるスポーツ活動が単に運動量や興味・娯楽面だけに重点が置かれるような教育内容はさしひかえられるべきである。

[今後の方向性] 現在進めているスポーツのルール研究を基に、人間が人間の動き (スポーツ活動) に対して評価・判定する場合の必要条件の整理、ひいてはスポーツ活動のアイデンティティの究明に努力していきたい。

[活動と環境] ①研究費の増額を望む。文部省の積算基準の在り方を尊重した配分を願いたい。  
②教育・研究施設に関しては、体育施設の一環として「実験室」、「視聴覚室」の考慮、実現化を望む。また、現在の「第一体育館の全面的改築 (付帯施設の改善を含む)」と、「研究室の (体育館付近への) 移設」を要望する。

## 中 川 勇 治

NAKAGAWA Yuji

教 授

[研究領域] [領域] ドイツ文学小説理論 [キーワード] 「語り手」 (Erzähler)

[領域] R. ムジールの小説論 [キーワード] 小説による世界把握 (もしくは、領略)

[代表的業績] 「Über "Die Verwirrungen des Zöglings Törleß" Robert Musils」『ドイツ文学』第33号, 昭和39年

[研究テーマ] 文学研究の実効性 [キーワード] 文学の存在価値

[教育への還元] ドイツ語によって摂取したドイツ文学作品の内実、その周辺事情をドイツ語に



よる接近可能性のない学生諸君に出来るだけ平易、明確に説明紹介することに努力しております。

[今後の方向性] 日本人の文学趣味とドイツ文学のあり方（就中、作品を通して）の距離を測定し、相互の民族的な差異、あるいは共通性を求め、人間理解の一端とすること。

[活動と環境] 小生の研究上の特性から見て、海外研修が容易に出来るよう、財政的な援助措置があれば申し分ない。

## 原 田 稔

HARADA Minoru

教授

[研究領域]〔領域〕原子核物理学〔キーワード〕Nuclear Matter, Brueckner 理論

[代表的業績] “Upper-bound nature of the Brueckner energy of nuclear matter,” Journal of Physics G, 19 (1993) p1903

[研究テーマ] 相対性理論〔キーワード〕ローレンツ変換, 双子のパラドクス

[教育への還元] 距離があり過ぎて直接的にはとり入れられない。

[今後の方向性] Brueckner 理論：より一般的な核力への拡張を考えたい。

[活動と環境] 好ましいとは言えない。複数の研究者仲間が欲しい。

## 村 山 出

MURAYAMA Izuru

教授

[研究領域]〔領域〕①万葉集の作品研究〔キーワード〕言語における伝統と創造、発想と思想、潜在文献としての中国文学

〔領域〕②古代文学の史的研究〔キーワード〕基盤としての政治社会史、文化思潮、作者と家系

[代表的業績] ①作品研究：『山上憶良の研究』桜楓社、1976（昭和51）年、『憂愁と苦悩 大伴旅人・山上憶良』新典社、1983（昭和58）年

②史的研究：「和歌」、『日本文学新史〈古代I〉』至文堂、1990（平成2）年、『奈良前期万葉歌人の研究』翰林書房、1993（平成5）年

[研究テーマ] 上記の研究領域で示した課題を継続的に追求します。

①作品研究では、当面の課題として大伴旅人とその周辺歌人の作品を考察します。

〔キーワード〕言語における伝統と創造、発想と思想、潜在文献としての中国文学。

②古代文学の史的研究では、奈良時代の政治文化史と作品の関連性を再検討します。〔キーワード〕基盤としての政治社会史、文化思潮、作者と家系

[教育への還元] 大学における一般教育科目であっても、研究成果を反映すべきであると考え、講義の中で関連のある研究の現状について紹介し、問題点について自分の見解も述べるようにして、学生の探究心を刺激することに努めており、学生も関心をもって聴いてくれています。なお満足すべき状態にはありません。

[今後の方向性] 研究を体系化して自分の万葉学の構築を志向していますが、そのためにもまだ個別的基礎的な研究の蓄積が必要であると考えており、現在の研究テーマを継続します。

[活動と環境] 現在の研究環境は、業績発表の機会にも恵まれており、研究にあてる時間が制約されていることを除けば、おおむね満足しています。ただし、書籍代が高騰しており、文献資料収集のために研究費の増額を希望したいと思います。

## 和田 完

WADA Kan

教授

[研究領域] 〔領域〕心理学的人類学〔キーワード〕シャマニズム

〔領域〕臨床心理学〔キーワード〕文化結合症候群

[代表的業績] 最近比較的話題になったのはJerzy Banczerowski (Adam Mickiewicz 大学教授) との共著

「B. Pilsudski 『アイヌの祈り』」の英語訳である。(『北方文化研究』No. 20, 1989)

[研究テーマ] 上記に同じ

[教育への還元] 特に考えず。研究は趣味のようなもので、努力感はない。学生は多少とも成果のあった研究対象についての話題には自然ついてくるようである。

[今後の方向性] なりゆきのまま。まだまだ興味のある対象は多数あるので年令的にそうそう張り切れるものではないと思う。

[活動と環境] その時々状態に応じて、個人的に道を開くもの。好悪の判断の対象ではない。

## 池田 薫

IKEDA Kaoru

### 助教授

[研究領域] [領域] 数理物理学 [キーワード] Soliton, 戸田格子, KP hierarchy

[代表的業績] “A supersymmetric extension of Toda lattice hierarchy,” *Letters in Math. Phys.* 14(1987) “Algebraic study on the super-KP hierarchy and orthogonal super KP hierarchy,” *Comm Math. Phys.* 124 (1989) 共著

[研究テーマ] 非線型可積分系の量子化 [キーワード] 量子群  $W_\infty$  代数、Soliton

[教育への還元] できるだけ還元したいと思っている。

[今後の方向性] 現在行っている研究が無限次元代数と自然にむすびつき、無限次元幾何学における何らかの情報が得られることを期待している。

[活動と環境] 学会、研究会が主に東京、京都であるので旅費がもうすこしあればよいと思う。

## 久保田 顕 二

KUBOTA Kenji

### 助教授

[研究領域] [領域] イギリス経験論哲学 [キーワード] 人格の同一性、因果性

[領域] 生命倫理学 [キーワード] 安楽死、二重結果の原則 (Double Effect 論)

[代表的業績] 「人格の同一性」『哲学への旅』(共著)北樹出版、昭和63年、「ヒュームの因果論」東京大学文学部哲学研究室『論集』Ⅲ、昭和60年、「積極的安楽死と消極的安楽死(I)－『殺すこと』と『死ぬに任せること』－」広島大学倫理学研究会『倫理学研究』第5号、平成4年

[研究テーマ] [テーマ] 道徳哲学および社会哲学(英米圏を中心に) [キーワード] 自由、権利、利己心、功利主義

[テーマ] 生命倫理学 [キーワード] 安楽死、パターンリズム、自己決定

[教育への還元] 特に一般教育系の場合は、研究と教育との間にギャップが生じがちであり、研究がそのままの形で教育に活かされる機会は少ないと思われる。しかし他面、専門家ではない者を相手に自分の研究成果を公表してみ、その理解を求めたり反応を確かめる、ということは、研究を遂行するうえの一つの大きな動機づけになると思われる。また、そのような態度で教育に臨むほうが、自ずと授業にも熱が入り、教育的な効果を期待できるようにも思う。このような考えから、独りよがりに陥らない限りで、自分自身の最近の関心や研究成果を、かな

りの程度、講義の中に取り入れている。専門的な事柄を、日常的でわかりやすい（と思われる）表現で紹介することを試みている。もっとも、現在のところ上首尾に運んでいるかどうかは多少疑問であるが。

[今後の方向性] 道徳哲学や社会哲学といった実践哲学的な分野を中心に研究を進めていきたいと考えている。それがゆくゆくは、本学の理念や学生の関心にも合致してくるであろうことを、漠然とながら期待している。

[活動と環境] 概ね良好である。

## 土 屋 文 明

TSUCHIYA Fumiaki

助教授

[研究領域] [領域] 教育方法学 [キーワード] 教授学, 学習指導論,  
[領域] 視聴覚教育 [キーワード] C A I, パソコン教育

[代表的業績] 「ヴァーゲンシャインの教授論—『アンラサネマ』をめざす科学教育の提案—」『筑波大学教育学研究収録』第6集、「教職教育用C A Iプログラムの作成と試行—教育基本法条文のプログラム化を通して—」『視聴覚教育研究』第13・14号

[研究テーマ] ヴァルドルフ教育学 [キーワード] ルドルフ・シュタイナー, 自由ヴァルドルフ学校

[教育への還元] 現在教職関連科目を担当していて研究と教育は結びつきにくい状況にある。

[今後の方向性] ヴァルドルフ教育の教育方法的側面の追求。

[活動と環境] 研究施設の充実を望む。

## 中 川 喜 直

NAKAGAWA Yoshinao

助教授

[研究領域] [領域] 運動生理学 [キーワード] Sports physiology, tendon, collagen,  
[領域] スポーツ医学 [キーワード] Sports medicine, tendon, Mechanical properties

[代表的業績] Effect of aging on ultrastructure of slow and fast skeletal muscle tendons in rabbit Achilles tendons, *Acta Physiologica Scandinavica*, 152 : 246~252, 1994.

- [研究テーマ] アキレス腱に関する研究〔キーワード〕 Achilles tendon, tensile strength, ultrastructure,
- [教育への還元] スポーツ障害の予防、強化、維持に役立ち、運動器官（筋肉、腱、靭帯）を強化する観点から教育上還元するよう努力しています（乳幼児から成人および老人まで）。
- [今後の方向性] 教育と社会に役立つ研究
- [活動と環境] 特定研究費、教育研究特別経費など選考基準が明示的でなく、不合理と感ずる面がある。

## 花 輪 啓 一

HANAWA Keiichi

助教授

- [研究領域] 〔領域〕 運動と生化学〔キーワード〕 運動、心拍数、酸素摂取量、尿中タンパク、尿中カテコールアミン  
〔領域〕 身体活動と環境生理学〔キーワード〕 運動、気流、環境温度、体温（深部温、皮膚温）、発汗量、心拍数、酸素摂取量、熱中症、心電図
- [代表的業績] ・強度を規定した運動における尿中タンパクの変動  
・負荷強度を規定した運動による尿中タンパク排泄量  
・「有風下運動時の生体反応について」『日本生気象学会雑誌』第16巻、1号  
・スポーツ活動における熱中症事故予防に関する研究
- [研究テーマ] ・スポーツ活動における熱中症事故予防に関する研究〔キーワード〕 運動、発汗量、水分補給、体重減少、体温、乾球温、湿球温、輻射温  
・加齢にともなう視機能の変化に関する研究〔キーワード〕 加齢、視力、調節力、動体視力
- [教育への還元] 大学という教育機関および組織に在職している以上は、研究のための研究も大切であるが、それ以上に個々の研究成果を大学教育に還元することも大切であると考えている。したがって、研究テーマを設定する場合には、本学の学生が卒業して将来遭遇するだろうと思われる事柄も研究の視野に入れて行っている。それらの研究成果は極力講義の中で触れ、必要があれば学会発表資料を学生向けに再作成し、OHPやスライドを用いて講義を行っている。
- [今後の方向性] 身体活動と環境生理学の研究領域は今後も研究活動の中心として考えて行きたい。さらに、今後は高度情報化社会の労働生活と健康問題（労働衛生問題）についての研究も研究領域の対象とする構想である。

[活動と環境] 1. 研究費

研究分野は自然科学の医学・医療の研究分野と非常に密接に関連している。したがって、研究対象が人間であるがために、工学系と同様な測定機器を用いても医療系の機器では厚生省の安全基準を満たすため、製造コストが高くなっている。また、近年の医療系の機器が高性能化され、例え機器を購入したとしても、その維持費が高額化しているのが現状である。したがって、現状の研究費で近代的な測定機器の購入による最新の研究愚か、研究費が中途半端の額であるため殆どが消耗品等の購入に当てられているのが実態である。今後の予算配分に当たってはそれなり額の配分を望む。

2. 研究施設

基礎研究、応用研究ができる施設（実験室）がまったくないのが現状である。少なくとも基礎研究ができる実験施設を強く望むところである。

宝 福 則 子

HOFUKU Noriko

助教授

[研究領域] [領域] ①労働運動 [キーワード] 日本、第2次世界大戦後、ドイツ、労働者、日常生活、オーラルヒストリー

[領域] ②第三世界の社会変動 [キーワード] ペルー、軍事政府、ブラジル、工業化、環境破壊

[代表的業績] ①“Arbeiterbewegung in Japan-Aufschwung in der Nachkriegsperiode 1945—1952” Verlag Arbeiterbewegung und Gesellschaft wissenschaft, 1984 (著作) 「インタビュー資料の分析—『1900年から1933年までのブラウンシュヴァイクにおける労働者の日常生活』を手がかりに」 (論文)

②「ペルー『革命的』軍事政府による工業化とその挫折—ヴェラスコの実験」『人文研究』第38輯、1992、3 「アマゾンの熱帯林破壊について」『人文研究』第89輯、1995、

[研究テーマ] (1)第三世界の環境破壊 [キーワード] 開発と環境破壊、ブラジル、環境の再生、対外債務、

(2)ナチ抬頭までの労働者の日常生活 [キーワード] 労働者、日常生活、インタビュー資料、ブラウンシュヴァイク

[教育への還元] 一般教育「社会学」担当という性質から、専門の教官のように自分の研究をそのまま直接講義するわけにはいかない。履修学生の大部分は一年生なので、こ

れまでの受験勉強での暗記型学習法を捨て、対象とする事柄を自ら考え、社会的な物の見方を身に付け、他人と討論したり、その結果を文書化できるようにすることを課題としている。学生の興味をひくような身近な問題（環境、女性問題等）を題材に講義し、学生にはかれらの関心のあるテーマについてグループ発表と学術小論文を課している。

[今後の方向性] 現在の研究テーマ(1)を他分野の研究者と共同研究し、発展させる  
(2)を著書にまとめる

[活動と環境] ①研究費による図書購入は、図書が手元に届くまでに時間がかかりすぎる。そのため、研究に必要な資料は私費による部分が多い。②また、学生に使用させたい図書が少なすぎる（学生の研究テーマは広いから）ため、研究費から学生用図書にさく部分が多い。①私大のように書店で自分で購入し、領収書を提出して、代金を受領できるようにすれば解決する。②研究費は限られているので、解決は難しい。

## 商業教員養成課程

上野 耕三郎

UENO Kozaburo

教授

[研究領域] [領域] 19世紀イングランド教育史 [キーワード] 19世紀、イングランド、教育史

[代表的業績] 「微視の権力としての学校—19世紀イギリス教育史研究その2の2—」『人文研究』（小樽商科大学）第86輯、1993年

[研究テーマ] [テーマ] 19世紀イングランド教育史 [キーワード] 19世紀、イングランド、教育史

[教育への還元] 必要性は認める。ただし、専任教官の絶対的不足のもとで「教職に関する科目」をカバーしている現在、研究と教育は「直接には」結びついていない。もしそれを結びつけようとするれば、かなり無理が生じると思われる。さらに教職課程を履修している学生の意識に教育もあわせるように強いられており、「研究の教育への還元」を第一義的に考えることはしていない。

[今後の方向性] 現在の研究テーマを深めたい。



## 言語センター

江口 修

EGUCHI Osamu

教授

- [研究領域] [領域] 16世紀フランスルネサンス詩 [キーワード] ロンサール, プレイヤード
- [代表的業績] “Un corps allégorisant?” 『ロンサール研究』第4号、1991年、「叙事詩の危機あるいは危機の叙事詩」『危機を読む』（白水社）1994年所収
- [研究テーマ] 16世紀フランスルネサンス文芸における建国神話 [キーワード] 建国神話, ディスクール, 宗教改革
- [教育への還元] 16世紀というフランス語近代化の始まりにおける様々なディスクールと関るなかで、言語にまつわる日仏の幻想の共通点, 相異点が見えてくる。そのあたりを仏語教育の実践に役立てているし、さらに発展させたい。
- [今後の方向性] 文芸の諸ジャンルの横断的研究を深め、さらに、全ディスクールに通底する16世紀フランスルネサンスの言語への欲望の核を抽出したい。
- [活動と環境] おおむね良好であるが、1) 研究費の絶対額が少ない  
2) 旅費を増額して欲しい（東京出張が年間4回程度可能なように）。

大島 稔

OSHIMA Minoru

教授

- [研究領域] [領域] 記述言語学 [キーワード] 北方言語、古アジア諸語  
[領域] 言語類型論 [キーワード] 北方言語、古アジア諸語、北米インディアン諸語
- [代表的業績] 『北大言語学研究報告』第7号、1994. 3., “Prosody and Vowel Reduction in Eastern Aleut”, 「チュクチ語西部方言：音韻と語彙についての覚書」, 『人文研究』第87輯、1994. 4. 3., 「アイヌ語の『語』の特徴」, 北方言語研究者協議会編『アイヌ語の集い：知里真志保を継ぐ』、北海道出版企画センター、1993. 2., 「類別詞のタイプ：アメリカ北西部を中心として」、宮岡伯人編著『北の言語：類型と歴史』第3章、三省堂、1992. 6.
- [研究テーマ] ①アリュート語文法記述研究のまとめ [キーワード] エスキモー・アリュート語族、文法記述

②古アジア諸語コリャーク語諸方言の調査記述〔キーワード〕古アジア諸語、  
チュコトカ・カムチャッカ語族、方言記述研究

[教育への還元] 研究（北方少数民族語）と教育（言語学、英語学、英語）との間に直接の関わりは少ないが、異言語観・異文化観を養うという点で還元できると考えている。言語学概論、英語学概論、英語学など担当の教職科目では、広く言語一般から個別言語を偏見なしに観察し、記述する視点を導入している。英語の授業では実用面を重視し、特に音声聞き取りとコミュニケーションにおける語彙の選択、文型の選択に異言語・異文化研究のフィールド技術（認知論的アプローチ）を応用している。

[今後の方向性] 環北太平洋に分布する古アジア諸語に属するアリュート語、チュクチ・コリャーク語、アイヌ語の記述研究を基礎に、地域言語学的研究とともに言語類型論に新しい視点を提案する。また、それらの成果に基づき、インド・ヨーロッパ語とは大きく異なる言語現象に関して啓蒙活動を行う。

[活動と環境] 研究費を研究旅費に使用できるなどの自由裁量の幅を大きくして欲しい。

## 大 塚 讓

OTSUKA Yuzuru

教授

[研究領域] 〔領域〕日本の大学における外国語教育改革〔キーワード〕社会的ニーズと大学の外国語教育／学習者中心の外国語教育／チームワークに基づく外国語教育

[代表的業績] 「何が問われているのか？『大綱化』と大学の語学教育改革」*Language Studies*、創刊号、1993年 「ドイツ語教育の自立のために—『大綱化』が問い掛けているもの—」『日本独文学ドイツ語教育部会会報』第45号、1994年

[研究テーマ] 〔テーマ〕①大学、とりわけ社会科学系大学における外国語教育の将来像〔キーワード〕「必修制」から「選択制」へ — 責任ある外国語一貫教育への道

〔テーマ〕異文化コミュニケーションと第二言語習得〔キーワード〕①学習者中心の外国語教育②チームワークによる外国語教育

[教育への還元] 外国語教育は「教育」のために独自の「研究」を要する特殊な分野である。欧米では外国語教育学が学問分野として独立していることがそれを裏書きしている。従って外国語教育にあっては、研究は教育そのものを対象として行われるのでこの「還元」はきわめて直接的なものであり、むしろ「還元」それ自体を

目的として行われるといってもよからう。

研究対象は第二言語（母語以外の言語）習得の構造と方略全般である。（ドイツでは「外国語の教授と習得」と定式化されている。）これまでの日本の外国語教育は、形態規則の習得とそれに基づく訳読的読解を主として目指してきたが、それが時代や社会のニーズに十分に応えるものではないことが明らかになって既に久しい。現代の外国語教育の課題が4技能の総合的習得の達成にあることは国際常識である。それに対応して研究上の関心も、この複雑な仕組みの解明とそれに基づくより良い方略の探究に注がれている。この方略の探究には、個々の授業の実践に直接結び付くもの（これは本来、広範な学際的基盤—教育学的基盤、学習心理学的基盤、「記憶」に関する心理・生理学的基盤、異文化コミュニケーション論につながる社会科学的基盤、さらには言語学的基盤等—に立脚すべきものである）から「カリキュラム論」さらには教育組織・制度論までを包括する幅広い分野が含まれる。そしてこれらすべての根底には「学習者中心の外国語教育」という理念が据えられている。主体としての個々の学習者の次元でいかにして総合的言語能力の習得が達成されるか、そしてコミュニケーションのシミュレーション的学習による疑似社会体験を通じて彼女・彼がいかにして社会意識や世界観を拡大するかが現代の外国語教育の最終目的だからである。

[今後の方向性] 「外国語教育」研究は、第二言語習得の内在的プロセスとこれを支える外的条件の二つのテーマに大別されうるが、私の目下の関心はより多く後者に向けられている。上で述べた現代の外国語教育のコンセプトを本格的に実現するには、①徹底した小人数教育②初級から上級に至る一貫したカリキュラム③教室での1000時間程度の学習時間の確保（国際基準では1200～1500時間）④教師間のチームワークに基づく外国語教育⑤現在の「必修性」に替わる「選択制」の導入⑥一コマ4単位化等が不可欠の条件となる。そしてこれらの諸条件が満たされるためには、独立した専門コースないしは少なくとも本格的な副専攻的コースの設置が必要となる。「大綱化」以来、我が国の大学における外国語教育は、後退・空洞化と4年間一貫教育の追求とに二極分解しつつあるが、「言語センター」を擁ししかも大学の理念に「国際コミュニケーション」の重要性を謳って社会科学的素養を備えた国際的職業人の養成を目指している本学としては、当然ながら後者の道を、しかも本学独自の個性を形成する仕方で切り開くべきであろう。これは、本学の実学的社会科学教育と語学教育の伝統の延長線上に構想された現代的ビジョンとして、将来を先取りした新たな特徴を本学に付け加えるであろう。もっともこのような社会科学教育との関連において4

年間一貫教育を目指す外国語コースの構想は、我国では今のところ他に例を見ないものではあるが、ポーニアにあるヨーロッパ経済大学の有名な外国語コースをはじめとしてヨーロッパの社会科学系諸大学ではこれがほぼ定着したスタイルとなっており、「一步先を行く」本学にはまさに相応しいものではないか。

[活動と環境] 「外国語教育」研究の立場からすると、研究活動を規定する重要な環境的要因とはとりわけクリエイティブな仮説の設定と検証を可能にする条件を備えた「語学教室」の存在であり、また教師間のチームワークを容易にする共通の広場、すなわち共通利用される教育資料の常設と活発な意見交換を可能とする共同研究室の存在である。これはLL教室の新設を考えればそんなに高価なものではない。それにLL教室は一定の技能の習練にのみ適し、不可欠ではあるが本来「自習」向きの補助的な施設であって、語学教室そのものにとって替えることはできない。すべての語学教室はその目的に適った規模と設備（基本的AV機器等）を備えているべきである。現代の外国語教育ではネイティブ・スピーカーの教授法とノンネイティブ（例えば日本人教師）のそれはポダレスになりつつあり、またそれではなければチームワークに基づく教育が望めないからである。

## 君 羅 久 則

KIMIRA Hisanori

教 授

[研究領域] [領域] イギリスルネッサンス期の文学 [キーワード] シェークスピア、イメージ、比喩的言語、ワードプレイ、劇構造

[領域] コンピュータを利用したテキスト分析 [キーワード] コンピュータ・コンコーダンス、テキスト、データベース

[代表的業績] "Sir Thomas Elyot's *The Governour* and the Theme of Friendship in *The Merchant of Venice*," 『人文研究』(小樽商科大学)第57輯(1982年3月)

「Elyot, Marlowe, Shakespeare の語彙分析と比較—コンピュータ利用による—」『人文研究』(小樽商科大学)第83輯(1992年3月)

[研究テーマ] サー・トマス・エリオットの著作とシェークスピアの比較 [キーワード] コンコーダンス、データベース、テキスト

[今後の方向性] サー・トマス・エリオットほかシェークスピア同時代のテキストの範囲を広げ、

この時代の表現法、スタイル、語彙、イメージ等の調査研究とデータの蓄積からシェークスピアの研究を行う。

[教育への還元] 外国語の教育には、その言葉の文化的背景を知ることが不可欠であると考えられるので、可能な限り学生にはそのような面に目を向けさせるよう努め、英文学においては、シェークスピアをとりあげ、言葉のイメージや音のはたらきについて自分で考えられるよう指導している。

[活動と環境] 年間の研究費は少なすぎる。研究分野の図書や資料が乏しいが、1つの機関でいろんな分野のものを全て揃えるのは困難と思われるから、図書館などで、他大学や機関（国外も含めて）の図書や資料をもっと簡単に利用できるようなシステムを構築することが理想的であるとする。

## 高橋 純

TAKAHASHI Atsushi

教授

[研究領域] [領域] 20世紀フランス文学 [キーワード] 詩的言語、精神分析、アントナン・アルトー

[領域] 現代思想における科学と神秘 [キーワード] 科学、宗教、論理学

[代表的業績] 「主体から身体へ」(I~VII) 『人文研究』62, 67, 71, 72, 74, 75, 78輯  
「レイモン・アベリオにおける『神』『歴史』-Les Yeux d' Ezechiel sont ouverts 読解-」『フランス語フランス文学研究』38号, 1980, 「*Du-logique et de l'être chez Stéphane Lupasco*」『人文研究』83輯, 1992

[研究テーマ] [領域] ステファヌ・リュパスコの認識理論の可能性 [キーワード] エネルギー、論理、情動性

[領域] 19世紀自然哲学と現代科学の自然観 [キーワード] 神知学、全体論、ミクロ物理学

[教育への還元] 今日、すべての領域科学の細分化による断絶が嘆かれ、その統合が願われている。教育は、学生をそのような細分化された領域に追い込むものであってはならない。学問の方法的統合は各学問の内在的要請であると同時に、教育においては学生を閉ざされた領域から解放するためにも不可欠なものである。そのためにも、自分の研究を常により広い領域との関わりで展開すべく努力している。

[今後の方向性] 細分化・専門化に走る領域科学の論理とは異質な、特定の時代を生きる具体的な個人の文学・思想表現に内在する包括的な論理を明確にすることが課題。これは、学問の統合という目標のみならず、教育においてバランスのとれた視野

を提供する基礎ともなる。

- [活動と環境] ○研究費の消化を年度ごとに区切られると不都合や無駄が生じる。  
○学内での専門領域を越えた真に学際的な交流が乏しい。(このような交流は学問上のみならず、時代に呼応した大学の改組・発展を考える際の重要な材料となると考えられる。)

## 豊 国 孝

TOYOKUNI Takashi

教授

- [研究領域] [領域] D. H. Lawrenceの小説の研究 [キーワード] 神話、シンボル、時間  
[領域] W. S. Maugham の小説の研究 [キーワード] 仮象、真実
- [代表的業績] 「The Woman Who Rode Away - The Woman Who Died and Revived」『人文研究』76輯, 「A Modern Man Obsessed by Time , A Note on "The Man Who Loved Islands"」 - *The D.H. Lawrence Review* 7 - 1, 「Of Human Bondage - Maugham and His Sense of Liberation」『北海道英語英文学』XIII
- [研究テーマ] D. H. Lawrenceの小説の研究 [キーワード] 神話、シンボル、時間
- [教育への還元] この問題は非常に重要なことである。私個人としては英文学の授業にD. H. Lawrenceの小説論をとりあげている。また、英語の授業においても、彼の中、短編小説を講読のテキストとして使用し、一般的英語の知識以外に、ロレンスという作家について論じるようにしている。
- [今後の方向性] 現在 D. H. Lawrence の小説、短編小説等の研究をしているが、それを集大成したいと考えている。さらに Lawrence の詩にも興味をもっているので、その方面も研究してみたいと考えている。
- [活動と環境] 研究環境については良好である。

## 永 原 和 夫

NAGAHARA Kazuo

教授

- [研究領域] ①英文学、特にジェイムズ・ジョイス [キーワード] 英文学、ジョイス  
②英語教育、特に語彙研究 [キーワード] 英語教育、語彙研究
- [代表的業績] 「アイルランドの文芸復興とジェイムズ・ジョイス」『人文研究』第85輯 (1993・3)

「高等学校英語教科書の語彙比較—Unicorn, Crown, Creative について—」  
『人文研究』第81輯 (1991・3)

- [研究テーマ] ①20世紀初頭のアイルランドとジェイムズ・ジョイス [キーワード] アイルランド、社会、ジョイス  
②大学英語教育の基本語彙 [キーワード] 英語、語彙、コンピューター
- [教育への還元] ジェイムズ・ジョイス研究は担当の「英文学概論」、「英文学史」に直結するものであり、進行中のアイルランドの社会と文化に関する研究を一層深め、講義内容を充実する。大学程度の英語教育に要求される基本語彙の選定、および学習プログラムの作成は一般「英語」の教育において欠かせないものである。
- [今後の方向性] 現在進行中のジョイスに関する文化・社会的研究は厳密な作品研究、伝記的研究、歴史的研究と相まって初め可能であり、究極的にはモダニストとしてのジョイスの検証へ向かっている。
- [活動と環境] 本学はジェイムズ・ジョイスおよびアイルランド研究にとっては、共同研究者の不在、文献の不完備の点から良好な研究環境とはいえない。学外の研究者と交流を深めるためにも研究旅費の増額を望む。

## 山田 真史

YAMADA Mafumi

教授

- [研究領域] [領域] ①. 言語学および記号論の視点よりのスペイン文学の考察 [キーワード] 物語学, 物語記号論, 詩学  
[領域] ②. 上記視点よりの日本・スペイン文学の比較研究 [キーワード] 自然描写, 叙情詩, ガルシラソ・デ・ラ・ベガ, 西行, ベッケル
- [代表的業績] 「ドン・キホーテの記号論」, 日本記号学会編, 『かたちとイメージの記号論』, 東海大学出版会, 1991年 「日本とスペインの自然詩人をめぐって」, 『人文研究』84輯, 1992年
- [研究テーマ] [テーマ] ①の枠内において、グスターボ・アドルフォ・ベッケルの研究 [キーワード] スペイン後期ロマン主義, モデルニスモ, アントニオ・マチャード, 幻想文学, 物語の時間, 伝説, 民間伝承。  
[テーマ] ①において、日本とスペインの叙情詩の言語表現における差異をメタ言語的視点より考察。 [キーワード] 文化のコード, 文学のコード, メタ言語的行為, 凝縮, 命名, 敷衍。
- [教育への還元] 還元は必要と思われるが、必ずしも「研究」と「教育」は短絡的に結びつかな

いとも思える。研究をすすめていく過程で教育にもその反映が何らかの肯定的な形であらわれようというのが実感であり、その実感は必ずしも見当はずれなものとは思えない。

[今後の方向性] 上記①, ②の領域において継続されていくことになる。言及され、考察されるべきテーマが山積している。

[活動と環境] 好ましいものもあれば、必ずしも好ましくないものもある。客観的な事実として、不足しているものは、「時間」であろう。

## A. B. スペヴァコフスキー

A. B. Spevakovsky

助教授

[研究領域] [領域] 北東アジア諸民族の歴史と民族学 [キーワード] 歴史、民族学、文化、北東アジア

[代表的業績] Духи, оборотни, демоны и божества айнов, Москва, 1988 《Наука》

[研究テーマ] ①アイヌ民族の歴史と民族学 [キーワード] 民族学

②ロシア人と日本人の民族心理学 [キーワード] 民族心理学

[教育への還元] 言語を教育する際には、言語の構造そのもの以外に民族の文化、社会、精神構造をも教育する必要がある。その為には、前述の様な研究が不可欠であると考えられる。また授業などでは、その様な知識を学生に与えることに努めている。

[今後の方向性] 前述のテーマを今後とも発展させて行く予定である。

## 尾形 弘人

OGATA Hiroto

助教授

[研究領域] [領域] フランス文学・フランス語学 [キーワード] 記号論, テクスト論, レーモン・クノー

[代表的業績] 『『青い花』—レーモン・クノーが書いた一般言語学』

『人文研究』第85輯, 平成5年

[研究テーマ] レーモン・クノー研究 [キーワード] パロディー, 文体, 精神分析

[今後の方向性] 古今東西の文学のみならず, 言語学, 数学, 哲学, 都市論, 精神分析などにわたる, レーモン・クノーの広大な知の迷宮, その百科事典的なパロディー空間を, 記号論・テキスト論的視点から検討していきたい。



## 下 村 五三夫

SIMOMURA Isao

助教授

[研究領域] [領域] Experimental Phonetics (実験音声学) [キーワード] Speech Analysis by a Sonograph (ソノグラフによる音声分析)

[領域] Anthropophonics (人類音論) Jews-harps and Glottalized Singing (口琴と喉声歌唱)

[代表的業績] "An Analysis of Glottalized Sounds in Nenets by a Digital Sonograph" (デジタル・ソノグラフによるネネツ語における音門化音の分析) *The Study of Sounds*, (日本音声学会) Vol. x x II, December 1988, Tokyo. 「シベリア諸民族における口琴の名称について」 *Language Studies* (小樽商科大学言語センター) No. 2, March 1994, Otaru.

[研究テーマ] [キーワード] Interrelation between Jews-harps, Mouth-bows and Speech Synthesis (口琴及び口弓と音声合成の関係) [キーワード] Jews-harps, Komuz, Shaman-drums, Speech-synthesis (口琴、楽器コムズ、シャーマン太鼓、音声合成)

[教育への還元] 必要性は認める。しかしながら、自分自身、何を、どの様に、誰を対象に還元したらよいか見当もつかないというのが現在の状態である。折りにふれて専門的知識を英語教育へ応用する努力をしてきたつもりだが、力の不足を痛感する。

[今後の方向性] 口琴、口弓、喉声はシャーマンによる音声合成を目的として南アジアからシベリアにかけて伝播したと考えている。今後は、古代日本における口琴、コムズと呼ばれる三線の弦楽器、隼人の吠声(はいせい)との関連を追求したい。

[活動と環境] 研究費のうち一部を海外出張や研修に使用できないか。会議が異常に多いという印象を強くもっている。国家機関であるから会議から逃れることはできないが、合理的な回数と時間長にできないものだろうか。

## 杉 村 泰 教

SUGIMURA Yasunori

助教授

[研究領域] [領域] 英国小説研究 [キーワード] ハーディの研究、ウィリアム・ゴールディングの研究

[代表的業績] 'Hallucination and Plotmaking Principle in *Pincher Martin* by

William Golding' 『英文学研究』(日本英文学会) 英文号1989, 1989. 3

'Self-Destructive Community and the Improbability of War in *Lord of the Flies*' 『英文学研究』(日本英文学会) 英文号1994, 1994. 3

[研究テーマ] 現代英国小説研究〔キーワード〕 ウィリアム・ゴールディングの研究

[教育への還元] ウィリアム・ゴールディングは、現代英国の小説家の中で最も重要な作家の一人である。彼は現代社会が抱える様々な問題を多角的に捉え、決して性急な結論を下すことなく、状況を鮮明に提示する。暴力、性、宗教、スケープゴートの問題、差別など、現代の若者が避けては通れない課題を小説によって眼前に鋭く突きつける。英文学の授業では、ゴールディングの小説を解明することによって、学生が身近な問題を解決する糸口をつかめるよう指導している。

[今後の方向性] ゴールディングの作品の背景には、自己像喪失の問題がある。暴力や供犠の問題もここから生じている。このような人物の置かれた苦境の打開策を探ることにより、単なるペシミズムを越えた地平を開拓する。

[活動と環境] 研究費は好ましいと思われるが、図書が手許に届くまでにかなりの日数がかかり、研究上支障大である。図書館での迅速な図書整理を望むものである。

## 鈴木将史

SUZUKI Masafumi

助教授

[研究領域]〔領域〕近代ドイツ文学研究〔キーワード〕自然主義、ゲルハルト・ハウプトマン、世紀転換期文学、文学的ボヘミアン、聖杯伝説

[代表的業績] 「ドイツ世紀末ボヘミアンとその文学運動—Jugendstil, Heimatkunst との関連を巡って—」『ノルデン』(ノルデン刊行会) 第25号、昭和63年 「19世紀転換期ドイツに見られる聖杯のモチーフ—郷土芸術の逸脱から青年運動という帰結まで—」『人文研究』第83輯、平成4年

[研究テーマ]〔テーマ〕近代ドイツ文学研究〔キーワード〕ゲルハルト・ハウプトマン、自然主義、文芸雑誌、オットー・ブラーム、自由劇場

[教育への還元] 現状では、私の研究を私の職務(ドイツ語Ⅰ・Ⅱ)に効果的に還元することは困難である。もし還元しようと努めるならば、初修語学教育はその能率を著しく低下させることになるだろう。語学教育(特に初等)における文学研究成果の導入は言語の背景の理解促進といった副次的なものに留まり、語学教官の文学研究は語学教育とは異なった次元から要請されていると考えるのが妥当であろう。

[今後の方向性] 文芸雑誌を手がかりに、19世紀転換期の具体的なドイツ文壇事情、ひいては複雑に錯綜する当時の文芸思潮を分析、解明していきたい。

[活動と環境] ・研究費は当然足りない。雑誌のバックナンバー購入もままならない。  
・単行本に関しては全国の大学図書館からの相互貸借が可能だが、雑誌は複写のみが許されている。せめて雑誌の目次のデータベースがあれば迅速且つ効率的に雑誌を研究に利用できるのだが。

## 副 島 美由紀

SOEJIMA Miyuki

助教授

[研究領域] [領域] ①現代ドイツ文学 [キーワード] 現代ドイツ文学、現代オーストリア文学

[領域] ②フェミニズム研究 [キーワード] 女性学、フェミニズム批評、女性文学

[代表的業績] ①「Rettung durch die Vorhölle—über die Autobiographie von Thomas Bernhard」『オーストリア文学』第7号、1991年 「Sarah Kirsch (ザラ・キルシュ) の政治的实践」『ノルデン』第24号、1987

②「家父長制を解体する「家なる天使」たち—脱個人化・再個人化・女性—」『北星学園大学経済学部紀要』第29号、1992年 「ポスト・ヒューマン時代の政治的想像力、あるいはアイロニカルな神話」『人文研究』第89輯、1995年

[研究テーマ] ①フェミニズム研究 [キーワード] 女性学、フェミニズム批評、女性文学

②現代ドイツ文学 [キーワード] 現代ドイツ文学、現代オーストリア文学

[教育への還元] 私の担当する教育は言学教育ですが、言語というのはひとつの道具ですから、それをどのように使うかを学生に示していかねばなりません。従って、外国語の勉強を窓口として、どのような地域研究が可能になるかということを常に学生に示し、その結果をなるべく多く伝えていくように日々努力しているつもりです。

[今後の方向性] 現在はフェミニズム研究にしる、現代ドイツ文学研究にしる、現代に関するテーマを扱っていますが、今後は今日の思想的背景を形作る前世紀からの思想、特にユートピア思想についても研究分野を拡げていくつもりです。

[活動と環境] 制度改革等に関する話し合いに比べて、学問的研究に関する話し合い、研究会、発表会等の機会が少ないことは、あまり好ましくないと思われます。

高 井 收

TAKAI Osamu

助教授

- [研究領域] [領域] 英語教育 [キーワード] 第2言語習得理論、教育効果、中間言語分析
- [代表的業績] “Are Movies Really Effective for Japanese Students to Improve Their Listening Comprehension Ability?-A Pilot Study-” 『人文研究』第89輯  
1993年8月
- [研究テーマ] 映像が及ぼす語学教育的効果 [キーワード] 教育効果、ビデオ、マルチメディア  
異分化教育を目的としたマルチメディア語学学習システムの開発 [キーワード] 異文化間コミュニケーション、マルチメディア
- [教育への還元] 研究分野である英語教育は、大学の語学教育に直接関係するものであり、担当科目である「英語科教育法」にもその理論が応用される。
- [今後の方向性] 国内における英語教育だけではなく、国際語としての英語教育の各国（外国）の現状を比較研究して行きたい。海外での共同研究など考えている。
- [活動と環境] ①言語教育に関する海外の雑誌（ジャーナル）を購入する必要。  
②海外での資料収集等に関する旅費（研究旅費）の確保。  
③研究費の共同研究旅費への流用実現。

津 曲 敏 郎

TSUMAGARI Toshiro

助教授

- [研究領域] [領域] ツングース・満州諸語の記述的研究 [キーワード] ツングース語、満州語、シベリア、中国東北部、北方少数民族
- [代表的業績] 『ツングース言語文化論集』1～3（1は共編、北海道大学文学部1991；2は共編訳、3は単編、ともに小樽商科大学言語センター1993）
- [研究テーマ] ロシア・中国におけるツングース諸語の類型と変容 [キーワード] ツングース語、満州語、シベリア、中国東北部、言語類型論、言語変容
- [教育への還元] 研究分野と担当科目が一致しているとは限らないので、目に見える形での還元は必ずしも必要ない。学生に「学ぶ姿勢」「基本的研究態度」「学問的・科学的ものの見方」を伝えることが「還元」につながるのではないか。
- [今後の方向性] 現在の研究領域を基本的に維持しながら深化・発展させる。
- [活動と環境] 学内的には、教育以外でも学内業務（各種委員会、入試業務等）のために、研究活動に支障をきたすことがある。

## 萩原正樹

HAGIWARA Masaki

助教授

- [研究領域]〔領域〕宋代詞人に関する研究〔キーワード〕宋代、詞、王沂孫、柳永、晏幾道
- 〔領域〕「欽定詞譜」に関する研究〔キーワード〕欽定詞譜、僻調、詞牌
- [代表的業績]「王沂孫の詠物詞について」（『學林』）第4号、昭和59年、「柳永の後半生とその詞」（『學林』）第12号、平成元年、「『欽定詞譜』訂誤－僻調について－」（『學林』）第18号、平成4年、「森川竹磎の『欽定詞譜』批判（上、中、下）」『人文研究』第87～89輯、平成6～7年
- [研究テーマ]①森川竹磎の詞学〔キーワード〕森川竹磎、「詞律大成」、詞牌、②金元代の詞牌及びその歌唱状況〔キーワード〕金元代、詞牌、詞楽、
- [教育への還元] 研究テーマと授業とは必ずしも一致しないのですが、研究によって得た知識や発見を出来るだけ授業の中に生かしたいと考えています。
- [今後の方向性] 各詞人研究と詞体研究を同時進行的にさらに発展させ、将来的には宋代詞人論と新詞譜の完成をめざしています。
- [活動と環境] ・研究費・旅費の増額を希望します。
- ・研究費による図書購入システムの改善。（具体的には、図書館を通さずに直接購入し、必要書類と図書現物を図書館に持参して即刻登録してもらうというようなシステムが望ましいと思います。）

## 匹田剛

HIKITA Go

助教授

- [研究領域]〔領域〕現代ロシア語の統語論〔キーワード〕ロシア語、統語論
- 〔領域〕ロシア語の北方少数民族諸語に対する影響〔キーワード〕言語接触、北方諸民族、ロシア語
- [代表的業績]「Extrapolation of elements out of some syntactic categories in Russian」『言語研究』第102号、1992年
- 「帝政ロシアの東方進出とロシア語の先住民諸言語に与えた影響」所収 宮岡伯人編『北の言語：類型と歴史』1992年、三省堂
- [研究テーマ] ロシア語の主格付与と一致をめぐる理論的・記述的問題〔キーワード〕主格、一致、ロシア語

[教育への還元] 語学教育には、その言語に対する深い知識が必要である。そして、言語学的研究が、常に新しい教授法を生み出していくと考えられよう。自らの研究成果がどのように教育に役立つかは常に考えていかなければならないテーマであると考えている。

[今後の方向性] より広範な問題についてロシア語の統語的研究を行う予定である。

[活動と環境] 研究費が不足する。(例えば、機材を購入すると文献の購入がほとんど不可能になる)  
雑用が多いのでサポートする事務官を増やして欲しい。

裴 崢

PEI Zheng

助教授

[研究領域] [領域] 教育方法学 [キーワード] 日本文学作品の読み方  
[領域] 表現法 [キーワード] 「曖昧」、ユーモアの理論とその表現方法

[代表的業績] 「井伏鱒二の『鯉』、『山椒魚』の作品分析—エンプソンの理論にもとづいて—」『北海道大学教育学部紀要』56号、1991年(同年『国文学次別論文集』収録)、「ペーソスを交えたユーモアについて」『教授学の探究』(北海道大学教育学部)、第10号、1992年。

[研究テーマ] 日本文学作品の読みの指導方法 [キーワード] 表現課題による日本文学作品の読みの指導方法

[教育への還元] 語学教育の場合、表現の膨らみや味わいを正確に指導していくと、その言語の世界をより深く理解すると同時に、学習者自身の言語に対する豊かな理解力と細やかな感受性を養い、ひいては異文化への開眼、積極的な理解に導くことに役に立つのではないかと思う。

[今後の方向性] 具体的な教材の分析、指導案の作成、及び授業の実践を積み重ねながら、「表現課題方式」の指導過程論を深めていきたい。

[活動と環境] 実践の場をもちたい。  
他の国の関連研究を調べ、現実の教育現場を調査したい。

山本久雄

YAMAMOTO Hisao

助教授

[研究領域] [領域] 英語を目標言語としての普遍文法の解明 [キーワード] 生成理論、変

形、統語論、普遍文法

[代表的業績] “On Feature Checking in the Minimalist Program . ”

『人文研究』第88輯、1994 PP.261-274

[研究テーマ] 「ミニマリスト理論」に基づく言語分析〔キーワード〕ミニマリスト・連鎖形成・最短距離の原則

[教育への還元] 学校文法でのみ英語（の文法）に接してきた学生に、その文法では説明不可能な英語の現象も、生成理論を用いればそれが可能であることを（必要な場合には）講義している。

[今後の方向性] 最新の理論に着目し、自らも新しいアプローチを研究しながら、普遍文法の解明を目指す。

[活動と環境] 現状はある程度好ましいものと考えている。

## 吉 田 直 希

YOSHIDA Naoki

講 師

[研究領域] 〔領域〕18世紀英文学〔キーワード〕ヘンリー・フィールディング

[代表的業績] “The Power Within: *Tom Jones* and the Egyptian Majesty” 『試論』第32集、1993年

[研究テーマ] 18世紀英文学研究における刑罰制度の諸問題〔キーワード〕ヘンリー・フィールディング、ミシェル・フーコー

[教育への還元] 狭義の英文学研究を批判的に検討することにより、その成果を社会科学全体に広がりを持たせる形で展開することが現在の教育には必要であると考え。したがって、文学テキストに表される諸問題を現代社会が抱える多層的問題と結びつけ、文学研究を広く社会に開いていくように努めている。

[今後の方向性] 18世紀英文学における表象一般の問題を様々な社会制度の歴史と関連づける方法を模索し、制度としての文学のあり方を検討する。

[活動と環境] 様々な領域にわたる資料を相互に参照する必要があるため、作業の効率化を図れるように研究環境が整備されることを希望する。

## 平 田 洋 子

HIRATA Yoko

助 手

[研究領域] 〔領域〕英語教育〔キーワード〕誤答分析、誤彙分析

[代表的業績] 「誤答分析－日本の高等学校における英語成績上位者を対象として－」

『人文研究』第85輯、平成5. 3

「日本とフィンランドにおける初習英語教科書の語彙分析」

『人文研究』第89輯、平成7. 3

[研究テーマ] 英語教育、英語教材分析



## 保健管理センター

浅沼 義英

ASANUMA Yoshihide

教授

[研究領域] [領域] 内科学 [キーワード] 呼吸の病態生理、糖尿病  
[領域] 温泉医学 [キーワード] 水中生理、物理療法

[代表的業績] 「呼吸不全に対する高・低濃度酸素ガスの反復吸入法に関する研究」  
『日本胸部疾患学会誌』20巻4号、1982年

“Characteristics of Pulmonary Function in Patients with Diabetes Mellitus,” *Diabetes Research and Clinical Practice*, 1巻2号、1985年 “Improvement of Respiratory Resistance by Hot Water Immersing Exercise in Adult Asthmatic Patients,” *Clinical Rehabilitation*, 1巻、1987年

[研究テーマ] 水中及び運動における生理機能 [キーワード] リハビリテーション、運動、生理学的適応、エネルギー代謝

[教育への還元] 保健理論の科目を担当している。これまでの研究と医療の経験をふまえて、啓発的な健康教育を心がけている。これには非常に幅の広い分野があるが、医療に直接に携わることがないにしても、社会人としての生活に有用な重要と思われるテーマを設定している。このような教育は、自己の健康管理について身近な問題を深く考えるよい機会ととらえている。

[今後の方向性] 健康教育を推進する立場からは、学生の生活の現状に関連した予防医学の基礎的な研究を行ってゆきたい。これにより研究を教育面にも還元することができる。また、医学の原理と社会活動の接点を追求する研究は社会科学の大学として意義があり、学生の志向に応じて将来的に追求する価値がある。

[活動と環境] 専門的な実験研究は、設備や時間的な制約でかなり困難である。それでも、保健管理センターの将来展望からみた役割として、保健管理センターの目的にまだ盛られてはいないが、研究施設として位置づけが望ましい。

## 外国人教師

ダイアン・カマラーターチャールズワース

Diane Cammarata-Charlesworth

外国人教師

[研究領域] [領域] 19th Century American Literature and Dramatic Literature [キーワード] American Blackface Minstrelsy and Italian commedia dell'arte

[研究テーマ] Popular Culture: American Blackface Tradition and Italian commedia dell'arte [キーワード] Masking: American Blackface Tradition and commedia dell'arte

[代表的業績] ・ *Apples Make the World Go Round*. A commedia play for youth dramatized on Rue duo television network, Italy. October, 1992.

・ Series of commedia dell'arte Lectures: Modern Language Department, Canisius College, Buffalo. 1989, 1990, 1991.

・ Workshop: "From an Introduction to Poetry to Creating a Poem, Secondary level," New York State College English Teachers Conference, October, 1985.

・ 1st International Women Playwrights Conference Buffalo, Administrative Staff, 1987-1989.

・ Japanese Delegate to 3rd International Women Playwrights Conference, Adelaide, Australia, 1994.

Presentations:

1. Blacks on the Minstrel Stage: Outcasts of American Society in the 19th Century, June, 1995.

2. "Silence in the World of PMS (Patriarchal Male Society)"-Adelaide, Australia, 1994.

3. Seminar, Otaru University, paper presented - "Team Teaching", 1993.

4. Popular Culture Onstage in 19th Century America. *Review of Liberal Arts*, July, 1995.

Articles:

1. "Identity of the Author as Evidenced in *The Narrative of Frederick Douglass, An American Slave Written by Himself*" *The Review of Liberal Arts*, March, 1994.

2. "The Tragic Dimension of Bigger Thomas, a Native son" *Language Studies*, March, 1993.

3. "Masks, Theatrical Tradition of the Commedia dell'arte" *The Review of Liberal Art*, March, 1995.

[教育への還元] English conversation, and English composition; intensive courses for non-traditional students in English conversation.